

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 1 - 1	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	事務局運営事業（内部運営事業）		担当課	教育総務課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	2			
	政策	2			
					第2次総合計画 114頁

対象	学校及び各種教育関連団体	意図 (対象をどのようにしたいのか)	円滑な学校運営を図るとともに、各種関係団体との連携を図り教育内容の充実・向上を図る。
事務事業の概要	円滑な学校運営を図るとともに、各種教育団体が行う事業の経費の一部を負担し、情報交換、情報共有を行うことで各種事業の推進に繋げる。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
負担金支払件数	件	8	9	—	—	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	教育委員会事務局運営庶務業務	事業費	千円	6,588	4,643	6,225	A	
2	教育系サーバ等保守業務	対象校数	校	12	12	12	A	
		事業費	千円	1,795	2,379	11,129		
3	教育系サーバ等借上業務	対象校数	校	12	12	12	A	◎
		事業費	千円	9,522	9,522	9,964		
4	会議出席負担金（全国都市教育長協議会総会・研究大会）	事業費	千円	0	7	7	B	
5	山口県ひとつづくり財団奨学資金負担金	事業費	千円	361	355	354	B	
6	山口県学校保健連合会負担金	事業費	千円	31	30	30	B	
7	山口県市教育委員会協議会負担金	事業費	千円	26	26	26	A	○
8	自治体国際化協会負担金	事業費	千円	316	192	500	B	
9	周南地区小規模教育振興会負担金	対象校数	校	2	2	2	B	
		事業費	千円	37	37	38		
10	全国都市教育長協議会負担金	事業費	千円	17	17	17	A	
11	中国地区都市教育長協議会負担金	事業費	千円	5	5	5	A	
12	山口県公立学校施設整備期成会負担金	事業費	千円	4	4	4	A	
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	18,702	17,217	28,299	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.40人	0.40人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	2,832	2,854	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
人件費を含む総事業費（千円）				A + B	21,534	20,071		
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他			640	643		
		一般財源		20,894	19,428			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
教育委員会と各学校間の連携を図るために必要な教育系ネットワーク及びサーバ機器の借上げをはじめ、教育情報センターの管理運営など、円滑な学校運営を図るうえで情報システムの適切な管理は、重要な業務である。 また、県内市の教育委員会との連携を図るため、山口県市教育委員会協議会負担金の支出は必要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 教育委員会内に設置する教育情報センターにおける教育系ネットワーク及びサーバ機器を適切に管理・保守することで、本機器を活用した教育委員会と各学校間のスムーズな連携が図られ、円滑な学校運営に寄与している。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 通信ネットワークを活用した教育委員会と各学校間との連携は、業務の効率化に有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 教育委員会と各学校間の連携に寄与する業務であり、本業務の実施主体となることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 1 - 2	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	事務局運営事業（学校運営事業）		担当課	教育総務課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち	
	重点目標	2		人間性を育み可能性を高めるために	
	政策	2		教育環境の充実	
					第2次総合計画 114頁

対象	小学校及び中学校、各種教育関連団体	意図 (対象をどのようにしたいのか)	急激に変化・多様化する教育環境に伴う諸問題に適切に対応するとともに、各種教育関係団体等を支援し、教育内容の充実・向上を図る。
事務事業の概要	教育関連団体への補助を行うことは、本市教育の質の向上に寄与するとともに、併せて諸団体の活動を支援していく。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	光市学校保健会補助金	研修会参加人数 事業費	人 千円	35 130	37 130	40 130	A	
2	光市教育開発研究所補助金	機関紙等の発刊件数 事業費	回 千円	6 2,510	6 2,510	6 2,510	A	◎
3	光市小学校長会補助金	研修会への参加及び開催 事業費	回 千円	22 258	22 258	22 258	B	
4	光市中学校長会補助金	研修会への参加及び開催 事業費	回 千円	24 127	24 127	24 127	B	
5	光市公立学校教頭会補助金	研修会への参加及び開催 事業費	回 千円	13 200	13 200	13 200	B	
6	小中学校児童生徒指導活動費補助金	研修会回数 事業費	回 千円	3 70	3 70	3 70	A	
7	特別支援学級校外活動費補助金	校外活動実施回数 事業費	回 千円	2 270	2 270	2 270	A	○
8	山口県中学校英語暗唱・弁論大会補助金※4年に1回	参加人数 事業費	人 千円	— —	— —	— —	—	
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	3,565	3,565	3,565	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.30人	0.30人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	2,124	2,141	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
人件費を含む総事業費（千円）				A + B	5,689	5,706		
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		5,689	5,706			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
教育開発研究所は小中連携による細やかな教育指導や教育現場での様々な課題への対応策の構築など、教育の振興と教員の資質向上に大いに寄与しており、本市教育行政に重要な役割を担っている。また、心身に障害のある児童生徒の校外体験活動は、子どもたちの心身の成長に大きく影響を与えるとともに、貴重な体験となることから、重要な事業である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 本市教育行政の推進に寄与する教育団体への補助については重要であるが、補助団体の業務成果の分析を行うためにも、事業後の実績報告書の十分な確認が必要である。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 学校運営事業を構成する事務事業として、教育団体においては教育行政の向上のための活動を主体的に行っていることから、その活動に対し補助することは適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 教育行政の向上に寄与する各種団体に対し補助することは適切と考えるが、補助の目的と事業の内容が適切であるか実績報告書等の十分な確認が必要である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 2 -	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602
事務事業名	事務局運営事業（学校教育課）		担当課	学校教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	2			
	政策	2			
					第2次総合計画 114頁

対象	光市内全小中学校児童生徒	意図 (対象をどのようにしたいのか)	質の高い教科書の選定や特別な支援が必要な児童生徒の指導に関する専門性の高い指導助言体制等を整備することで、質の高い教育環境を提供し、知徳体のバランスのとれた児童生徒を育てる。
事務事業の概要	光市の生徒にとって最も学習効果のある教科用図書を選定するため、検定済教科書の内容研究を行う。日本語指導が必要な外国人児童生徒や帰国子女等に対し、通訳による援助を行う。光っ子コーディネーターが各校や園等に訪問し、特別な支援が必要な児童生徒の担任や保護者等に指導助言を行う。日本スポーツ振興センター災害共済給付金制度や全国市長会の損害賠償責任保険に加入し保護者負担の軽減をする。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
光っ子コーディネーターによる訪問・相談回数	回	356	314	300	105.0%	300	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	光市教科用図書研究調査協議会業務	対象委員数	人	—	10	32	A	
		事業費	千円	—	20	114		
2	通訳ボランティア業務	人数	人	0	0	2	—	
		事業費	千円	0	0	46		
3	光っ子コーディネーター業務	訪問・相談回数	回	356	314	300	A	◎
		事業費	千円	0	0	0		
4	賠償責任保険料・損害賠償金	加入人数	人	3,757	3,651	3,651	A	
		事業費	千円	3,892	3,791	3,822		
5	庶務業務	事業費	千円	117	121	139	A	
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	4,009	3,932	4,121	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.25人	0.25人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	1,770	1,784	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善	
人件費を含む総事業費（千円）				A+B	5,779	5,716	C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金		241	224			
		地方債						
		その他						
		一般財源		5,538	5,492			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
発達障害等の可能性から特別な支援が必要な児童生徒数は年々増加しており、学校の教育活動への不応の状態も個々によって様々である。そのため、個別の対応について、教職員の知識やスキルをより一層高めて行くことが求められている。そのため、専門的な見地からの指導助言を継続的に行っていくことが必要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 光っ子コーディネーターのニーズが非常に高く、的確な指導助言から各学校の高い信頼を得ている。さらに、年長園児の保護者からの就学相談においても、不安の解消につながるアドバイス等を行うことで安心感を与えるとともに、適切な就学指導につながっている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 ソフト面を中心とした教育環境の条件整備に関わる業務で構成されており、該当の児童生徒が生じた場合や何年かおきに必然的に実施する業務もあるが、それぞれ適切な対応が求められるので、業務としては高い有効性がある。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 教育委員会事務局に一定のマネジメントの権限があるので妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 3 -	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602	
事務事業名	連携・協働教育推進事業		担当課	学校教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費	
				目 2	事務局費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち		第2次総合計画 116頁
	重点目標			人間性を育み可能性を高めるために		
	政策			地域ぐるみの教育の推進		

対象	市内小・中学校児童・生徒、保護者、地域住民、及び園長・教職員	意図 (対象をどのようにしたいのか)	子どもたちに確かな学力、豊かな心、健やかな体などのバランスのとれた「生きる力」を育む
事務事業の概要	子どもたちに知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むために、連携・協働を基盤とした教育の推進、中学校区を核とした次世代型コミュニティ・スクールの推進等を行う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
連携・協働教育推進協議会及び研修会の参加者数	人	96	85	99	85.6%	99	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	連携・協働教育の推進 ●	協議会回数	回	2	2	2	B	
		事業費	千円	53	16	51		
2	光市コミュニティ・スクールの推進業務 ●	指定校数	校	16	16	16	A	◎
		事業費	千円	1,145	1,141	1,222		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A					1,198	1,157	1,273	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.05人	0.10人	【業務評価】 A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 一：一時的に実施無し		
		人件費（千円） B		354	714			
人件費を含む総事業費（千円） A+B					1,552	1,871		
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		1,552	1,871			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
中学校区を核とする次世代型コミュニティ・スクールを推進するため、各学校運営協議会の質の向上を図るとともに、学校間・校種間連携を深化させ、本市が今後進めていく小中一貫教育と地域総がかりの教育を充実を図るため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 連携・協働教育推進協議会及び研修会は各1回実施（計2回）し、市内20園、11小学校、5中学校（計36園校）から各1名以上の参加を見込み、目標とした。協議会及び研修会は、専門性の高い講師を招聘することで、連続性・発展性のある教育実践、接続期の充実を図っていく上での大きな成果をあげた。 コミュニティ・スクール研究協議会は年間3回の協議の場を設け、市内全小中学校から1名以上の参加を見込み、60名以上の参加を目標とした。専門性の高い講師を招聘し、研修の質の向上を図った。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 平成24年度には、事務局運営事業内にあった「光市コミュニティ・スクールの推進業務」及び「スクールガードリーダーによる学校訪問業務」を、連携・協働教育推進事業に統合を進めた。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 「幼保・小・中学校の連携を密にし、15歳までを見通した具体的な取組」を市教委では推進しており、本事業を本市が今後進めていく小中一貫教育につなげるためにも、市が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 4 -	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602
事務事業名	スクールライフ支援事業	担当課	学校教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 青少年の健全育成
	重点目標	2			
	政策	4			
					第2次総合計画 118頁

対象	市内小・中学校児童・生徒、保護者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	児童生徒、保護者の心身の健康保持
事務事業の概要	児童生徒、保護者の心身の健康保持のために、心療カウンセラー、及び社会福祉士の派遣を行う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
不登校出現率（小・中学校）	%	0.98	—	0.95	—	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	心療カウンセラーの派遣業務 ●	派遣回数	回	12	12	12	A	
		事業費	千円	240	240	240		
2	不登校未然防止業務 ●	派遣時間	時間	395	395	480	A	◎
		事業費	千円	1,765	1,737	2,077		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				2,005	1,977	2,317		
職員人件費等		業務量（人工数）		3.10人	3.10人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		7,734	7,710	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円） A + B				9,739	9,687			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金		1,176	1,157			
		地方債						
		その他						
		一般財源		8,563	8,530			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
不登校の兆候がみられた児童生徒への早期対応が図られ、不登校の未然防止に効果をあげているため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 不登校の未然防止・早期対応を目的とした事業であり、不登校出現率を成果指標としている。国、県と比較すると、市の不登校出現率は低く、事業の効果が現れている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 教職員の資質向上、家庭・学校への訪問による児童生徒の指導や支援、保護者への助言、ケース会議への参加を通しての関係機関との調整等、不登校等の未然防止に効果をあげており、業務の構成は有効と判断できる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市内児童生徒、保護者の心身の健康保持に向けた事業であるという理由から、関係機関と連携を図りながら進めており、市が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 2 -	作成者氏名	川村 彰	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	地域間交流事業（海外派遣事業）		担当課	教育総務課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費
目 2	事務局費				
第2次総合計画	基本目標 重点目標 政 策	コード 2 2 5	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 国際交流の推進	
					第2次総合計画 120 頁

対象	中学生及び教職員	意図 (対象をどのようにしたいのか)	国際社会に対応するため、生徒が外国でのホームステイによる生活体験を通して交流を深め、生活、習慣、文化、語学等幅広い知識を身につけ、国際感覚の育成を図るとともに、幅広い視野を持った生徒の育成に寄与する。
事務事業の概要	光市中学生等海外派遣事業実施要綱に基づき、国際社会に対応するため、生徒が外国でのホームステイによる生活体験を通して交流を深め、生活、習慣、文化、語学等幅広い知識を身につけ、国際感覚の育成を図ることを目的に毎年12名程度の中学生を海外に派遣するとともに、語学教育の充実や国際理解を深める教育を推進する。地域間交流事業については、H28事業をもって廃止した。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
海外派遣人数（中学生）	人	12	11	12	91.7%	12	
横芝光町訪問人数	人	1	—	—	—	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	海外派遣事業 ●	派遣回数 事業費	回 千円	1 4,123	1 3,835	1 4,170	B	◎
2	地域間交流事業	学校訪問回数 事業費	回 千円	1 50	— —	— —		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				4,173	3,835	4,170		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.35人	0.35人		【業務評価】	
		人件費（千円） B		2,478	2,497		A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善	
人件費を含む総事業費（千円） A+B				6,651	6,332		C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 一：一時的に実施無し	
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		6,651	6,332			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
国際性豊かな人づくりのため中学生を海外に派遣し、語学教育の充実や国際理解を深める教育を推進することは大いに有効である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 派遣された生徒は、異文化に触れることで日本との相違を実感し、国際感覚を高める良い機会となっている。また、帰国後の報告書の作成、報告会を通じ周囲の生徒も外国に関心を持つことにつながっている。 地域間交流事業については、市立小学校全校が訪問し役目を果たしたこともあり、事業見直しに伴いH28事業をもって廃止した。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 有意義な研修が行われ、子どもたちの視野を広げることに対し大変有効であり適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 派遣事業の実施により、国際性豊かな人材の育成が図られていることから、市が主体となり事業を実施していくことは妥当であると考ええる。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 5 -	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602	
事務事業名	特別支援教育推進事業	担当課	学校教育課			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費	
				目 2	事務局費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち		第2次総合計画 108頁
	重点目標	1		安心して子どもを生み育てるために		
	政策	3		保育・幼児教育の充実		

対象	市内小・中学校児童・生徒、及び保護者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	児童生徒、保護者の心身の健康保持
事務事業の概要	児童生徒の心身の健康の保持及び保護者の養育に関する不安を軽減するために、就学相談会、教育支援委員会等を行う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
就学相談件数	件	44	40	36	111.0%	36	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	就学相談会業務 ●	開催回数	回	12	12	12	A	○
		事業費	千円	240	240	240		
2	教育支援委員会業務	開催回数	回	3	3	6	A	◎
		事業費	千円	36	42	78		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A					276	282		318
職員人件費等		業務量（人工数）		23.05人	22.10人	【業務評価】 A：達成済 目標準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
		人件費（千円） B		54,220	52,018			
人件費を含む総事業費（千円） A + B				54,496	52,300			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		54,496	52,300			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
対象となる児童生徒の就学先の決定に当たっては、教育学、医学、心理学等の専門家の意見を聴取することが必要であるため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 就学相談会は毎月1回、年間12回の実施であり、1回当たり3件の相談を見込み、目標を年間36件とした。相談件数は昨年度に引き続き目標値を上回っている。相談を行ったケースについては、保護者支援や適正な就学支援へつなげることができ、成果が得られた。 年3回実施している教育支援委員会では、審議児童生徒数が年々増加傾向にある。丁寧な審議を行うことで、児童生徒一人ひとりの適切な就学の決定につながっている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 個々の児童生徒の観察や各種検査等の客観的データをまとめた資料収集と、その分析に基づく適正な就学先の決定を行っており、業務の構成は有効と判断できる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市内児童生徒の心身の健康の保持及び保護者の養育に関する不安を軽減するために、就学相談会、教育支援委員会等を実施する必要があるという理由から、関係機関と連携しながら、それぞれの専門性を生かした役割分担を進めており、市教委が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 6 -	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602
事務事業名	コミュニティ・スクールコンダクター活用事業		担当課	学校教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 地域ぐるみの教育の推進	第2次総合計画 116頁
	重点目標	コード	2		
	政策	コード	3		

対象	小・中学校児童・生徒、保護者、及び地域住民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	各地域や学校の特性を活かすとともに、優れた取組の普及や課題の共有を図ることによって、全ての学校の教育水準と学校運営の質の向上をめざすとともに、小・中合同の学校運営協議会や小中連携の推進により、中学校区を核とする次世代型コミュニティ・スクールの取組の充実を図る。
事務事業の概要	コミュニティ・スクールコンダクターの配置、中学校区を核とした次世代型コミュニティ・スクールに係る取組の指導及び支援等		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
CSコンダクター訪問回数	回	172	176	160	110.0%	160	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	コミュニティ・スクールコンダクター業務	コミュニティ・スクールコンダクター訪問回数	回	172	176	202	A	◎
		事業費	千円	182	43	25		
2		事業費	千円					
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計(千円) A				182	43	25		
職員人件費等		業務量(人工数)		1.15人	0.15人	【業務評価】		
		人件費(千円) B		3,404	1,070	A: 達成済 目標水準プラス見直し B: 実施手法の要改善		
人件費を含む総事業費(千円) A+B				3,586	1,113	C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 -: 一時的に実施無し		
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金		2,558				
		地方債						
		その他						
		一般財源		1,028	1,113			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
中学校区を単位とした次世代型コミュニティ・スクールの推進にあたり、各学校・地域の特性を活かし、国・県の動向を踏まえた実践への支援・助言が必要であるため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 市内各小・中学校における、学校運営協議会への参加等とおして、保護者や地域の意見が反映されるとともに協力を得て、取組の充実や改善が効果的に図られた。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 学校運営協議会での指導を行うとともに、各中学校区で実施される行事や取組へ参加し助言することで、各学校・保護者・地域のつながりが強化し、活動内容が充実していることから、業務の構成は有効と判断できる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市内各小・中学校での取組の統括や、行政など関係諸機関の連携を図る必要があるという理由から、市が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	和田 明俊	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 1 -	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602
事務事業名	光地域英語教育研究事業	担当課	学校教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 1	教育総務費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 質の高い教育の推進
	重点目標	2			
	政策	1			
					第2次総合計画 110頁

対象	室積小・中学校の児童生徒	意図 (対象をどのようにしたいのか)	小学校における英語教育開始学年の早期化、小学校高学年における英語教育の教科化、それに伴う中・高等学校における英語教育の目標・内容の高度化等を行う
事務事業の概要	小学校3・4年の外国語活動の研究、5・6年の教科型英語指導の研究を行うとともに、中学校では英語内容の高度化に関する研究を行う。具体的内容として、カリキュラムづくり、指導内容、教材開発、効果的な指導方法等。また、ICTの積極的な活用をすすめるために、タブレットを用いた英語学習の研究も実施する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
英語検定IBA（中学校）3級程度以上	%	64.1	68.0	70.0	97.0%	—	
英検Jr. 学校版（小学校）Bronze正答率	%	89.5	86.0	90.0	95.5%	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	光地域英語教育研究業務	ALTの授業時数	時間	300	280	—	E	◎
		事業費	千円	2,685	1,196	—		
2		事業費	千円					
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				2,685	1,196			
職員人件費等		業務量（人工数）		0.30人	0.35人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		2,124	2,497	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善		
人件費を含む総事業費（千円） A + B				4,809	3,693	C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し		
財源内訳		国庫支出金				D：業務廃止・完了の意向		
		県支出金		2,684	1,196	E：29年度を以て廃止・終了		
		地方債				—：一時的に実施無し		
		その他						
		一般財源		2,125	2,497			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
2020年度から次期学習指導要領が完全実施され、小学校中学年から外国語活動がスタートすること、高学年の外国語の教科化がされることを考慮すると、カリキュラムづくり、指導内容の工夫、教材や効果的な指導方法の開発、授業内でのICTの活用等は、喫緊の課題であるため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 ALTとの連携を重視し、積極的に工夫した授業づくりを行っていくことで、英語に親しむ活動が充実し、コミュニケーション能力が着実に身に付いてきている。意識調査や英語検定等の技能調査においても、年々結果も向上し成果も出ている。「読むこと」「書くこと」をどのように授業に仕組んでいくか、指導内容や方法等の改善に向け、更なる研究が必要である。さらに、評価内容、評価方法についての研究を進めていく必要がある。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 研究の成果が、市内小中学校で共有されることで教員の意識が向上し、効果的な授業改善が行われ、英語教育の充実につながっており、業務の構成は有効と判断できる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 小学校における外国語教育の早期化、高学年における外国語の教科化に向け、市全体の英語の教育力向上を図るためには、市が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 3 - 1	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	小学校管理事務費（施設管理）		担当課	教育総務課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 2	小学校費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	2			
	政策	2			
					第2次総合計画 114頁

対象	市立小学校、児童及び教職員	意図 (対象をどのようにしたいのか)	児童及び教職員が安全・安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。
事務事業の概要	学校施設の修繕箇所については危険度を十分に把握し優先度の高い箇所から順次実施するとともに、設備機器の保守点検等も含め、施設の適切な維持管理に努める。また、学校管理備品については計画的に購入するなど、予算の適正な支出に努める。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
施設に係る損害賠償事故発生件数	件	0	0	0	100.0%	0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	施設の修繕業務	修繕件数	件	188	135	—	A	◎
		事業費	千円	14,036	10,371	8,705		
2	施設の維持管理や設備機器の保守点検	事業費	千円	10,306	9,943	9,440	A	○
3	学校管理備品等購入業務	購入件数		75	48	67	A	
		事業費	千円	8,995	4,545	4,370		
4	小学校庶務業務	事業費	千円	63,081	64,134	65,116	B	
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	96,418	88,993	87,631	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.90人	1.10人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	4,297	4,864	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
人件費を含む総事業費（千円）				A + B	100,715	93,857		
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他			516	627		
		一般財源		100,199	93,230			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
小学校施設の保守・維持管理は、児童及び教職員等に安全・安心な学校生活を提供するために重要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 学校施設の修繕の必要な箇所は、施設の老朽化に伴い増加傾向にある。施設の定期的な点検等を行うなど危険箇所の早期発見に努めるとともに、修繕の必要な箇所については、緊急度の高い箇所から優先的に順次対応することで、指標にも定める学校管理下での事故等の発生に伴う損害賠償事故を発生させないよう対応していく。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 安心・安全な学校生活を維持するため、施設をより適切な状態に保つことが重要であり、そうした学校環境を維持していくために重要な業務である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市立の施設等設置主体が適切に維持管理することは適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 3 - 2	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	小学校管理事務費（学校運営事業）		担当課	教育総務課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 2	小学校費
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち	
	重点目標	2		人間性を育み可能性を高めるために	
	政策	2		教育環境の充実	
					第2次総合計画 114頁

対象	対象児童	意図 (対象をどのようにしたいのか)	室積地区において、学校の統合・休校により通学校が変更され、交通機関の利用を必要とする児童へ交通費を補助することで安全な交通手段を確保するとともに、交通安全及び通学困難の解消を図る。
事務事業の概要	光市児童、生徒通学費補助金交付要綱に基づき、学校の統合・休校により、室積小学校に五軒屋から岩屋停留所までの間を交通機関を利用して通学する児童に交通費を補助することで、安全な交通手段を確保するとともに、交通安全及び通学困難の解消を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
補助金支給率（室積地区）	割合	0	0	—	—	—	
補助金支給率（周防地区）	割合	1/3	—	—	—	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	児童通学費補助業務	対象児童数	人数	8	0	—	—	◎
		事業費	千円	80	0	—		
2		事業費	千円					
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				80				
職員人件費等		業務量（人工数）		0.25人	0.25人	【業務評価】 A：達成済 目標準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
		人件費（千円） B		1,770	1,784			
人件費を含む総事業費（千円） A + B				1,850	1,784			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		1,850	1,784			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
室積地区において学校の統合・休校により通学校が変更され、通学に交通機関の利用を必要とする児童に対して交通費を補助し、交通安全及び通学困難の解消を図る必要があり、対象児童がある場合には、平成29年4月1日施行の改正後の光市児童、生徒通学費補助金交付要綱に基づき、適宜対応していく。

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 平成29年度においては補助対象児童なし。対象児童がある場合には、光市児童、生徒通学費補助金交付要綱に基づき適宜対応していく。 なお、平成29年度より周防地区における児童、生徒通学費補助金は廃止した。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 対象児童がある場合には、光市児童、生徒通学費補助金交付要綱に基づき適宜対応する。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 通学環境や道路整備の改善等鑑み、対象児童がある場合には、光市児童、生徒通学費補助金交付要綱に基づき、適正に補助事業を実施することは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 7 - 1	作成者氏名	大隅 正宏	連絡先	0833-74-3602
事務事業名	小学校管理事務費（学校保健）		担当課	学校教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 2	小学校費
第2次総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 質の高い教育の推進
	重点目標		2		
	政策		1		
					第2次総合計画 110頁

対象	児童・教職員・就学前児童	意図 (対象をどのようにしたいのか)	児童が健康に学校生活を送るとともに、教職員が健康を維持し、よりよい学校教育の推進を図る。
事務事業の概要	児童、教職員が健康な学校生活を送るために、健康診断を行う。また、就学前児童についても、事前に健康状態を把握し、入学時からスムーズで健康的な学校生活が送れるよう実施する。さらに学校の環境衛生管理に努める。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
児童定期健康診断受診率	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	
教職員健康診断受診率	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	
う歯被患率（むし歯と診断された児童数）	%	52.2	48.1	—	—	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	児童定期健康診断業務 ●	児童健康診断	実施校	11	11	11	A	◎
		事業費	千円	16,266	16,075	16,275		
2	教職員の健康診断業務 ●	教職員健康診断	実施校	11	11	11	A	
		事業費	千円	3,336	3,075	3,858		
3	就学時健康診断業務 ●	就学時健診の実施	実施校	8	8	8	A	○
		事業費	千円	4,465	4,235	4,520		
4	環境衛生管理業務 ●	検査実施	実施校	5	5	5	A	
		事業費	千円	1,163	1,165	1,168		
5	フッ化物洗口業務 ●	事業費	千円	1,899	1,499	1,977	B	
6	小学校保健庶務業務	事業費	千円	1,439	1,130	1,570	A	
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				28,568	27,179	29,368		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.40人	0.45人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		2,832	3,211	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円） A+B				31,400	30,390			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		31,400	30,390			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
児童の健康診断は、学校保健安全法に基づき実施されるもので、児童が健全な学校生活を送るうえで重要な業務である。就学時健診についても、就学前児童の健康状況を把握し、入学後の健全な学校生活を確保するためにも重要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 平成29年度の児童、教職員の健診受診率は100%であり、病気の早期発見、早期治療の体制が整備されている。また、自己の体調管理に対する意識づけも図られているが、教職員の心の健康チェックについては、ストレスチェックを平成28年度から実施した。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 学校保健安全法に基づき実施され、公立学校における児童及び教職員の健康管理は必要な業務である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 法令に基づき実施する事業であり、市による事業の執行は妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 7 - 2	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602	
事務事業名	小学校管理事務費（知能検査）		担当課	学校教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 2	小学校費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち		第2次総合計画 110頁
	重点目標	2		人間性を育み可能性を高めるために		
	政策	1		質の高い教育の推進		

対象	小学校	意図 (対象をどのようにしたいのか)	児童の学習定着度、適性を把握し、その後の学習指導に役立てる
事務事業の概要	児童の適性等を把握し、その後の学習指導や生活指導等に役立てるため、小学校2年生に知能検査を実施する		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
実施校の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	知能検査等業務	実施校	校	11	11	11	B	◎
		事業費	千円	695	169	165		
2		事業費	千円					
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				695	169	165		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.05人	0.05人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		354	357	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 F：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円） A + B				1,049	526			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		1,049	526			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
定期的に検査を実施することで、児童一人ひとりの認知傾向や特性等を把握し、個に応じたきめ細かな生活指導や学習指導等に役立てていくためにも重要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 市内全11小学校において確実に実施されており、結果を分析し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導につながっている。知能検査においては、学力検査等ではわかりにくい、一人ひとりの特性を知ることができ、日々の指導に大いに役立っている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 客観的な資料を基に児童一人ひとりの適正把握を確実にし、日々の指導にいかしていくことは必要な業務である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市内児童の認知傾向や特性等を把握し、その後の生活指導や学習指導に生かすために必要な検査であるという理由から、市が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 4 -	作成者氏名	川村 彰	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	小学校整備事業	担当課	教育総務課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 2	小学校費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	2			
	政策	2			
					第2次総合計画 114頁

対象	児童及び教職員等	意図 (対象をどのようにしたいのか)	施設の老朽化に伴い、必要な改修及び整備を行うことで、児童及び教職員等が学校生活を安全・快適に送ることができる環境を整える。
事務事業の概要	児童及び教職員等が安全な学校生活を過ごせる教育環境を整備するため、引き続き、計画的な改修工事を実施するとともに、学校施設の安全性及び快適性を確保する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
改修工事件数（耐震化以外）	件	2	2	2	100.0%	2	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	屋上防水等工事実施設計委託 ●	設計件数	件	2	2	—	A	
		事業費	千円	2,668	1,944	—		
2	屋上防水等工事 ●	工事件数	件	2	2	1	A	○
		事業費	千円	101,742	35,456	22,000		
3	トイレ改修工事実施設計委託 ●	設計件数	件	—	2	4	A	◎
		事業費	千円	—	3,067	6,400		
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	104,410	40,467	28,400	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.40人	0.40人	【業務評価】		
		人件費（千円）		2,832	2,854			
人件費を含む総事業費（千円）				A + B	107,242	43,321		
財源内訳		国庫支出金				A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
		県支出金						
		地方債		99,100	38,400			
		その他						
		一般財源		8,142	4,921			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
学校施設を管理していくうえで、児童及び教職員等が学校生活を安全に過ごせるための環境整備は最優先課題である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 老朽化した学校施設の安心・安全を確保するため、屋上防水等工事をはじめトイレ改修等を年次的・計画的に実施しており、本事業は適切に遂行されている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 コンクリートの劣化を抑止するための屋上防水等工事をはじめトイレ改修の実施は、安心・安全な教育環境整備のために有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 行政によるハード面の整備、学校による避難訓練や災害に対する啓発活動等実施されており、適切に行われている。また、屋内運動場は各地区の避難所に指定されていることから、学校と地域住民の災害時における連携活動も実施している。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 5 -	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	小学校教育振興事務費	担当課	教育総務課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 2	小学校費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	2			
	政策	2			
					第2次総合計画 114頁

対象	児童及び教職員	意図 (対象をどのようにしたいのか)	児童及び教職員に充実した学習環境を提供し、学校教育の振興を図る。
事務事業の概要	教育用コンピュータの整備など、児童に充実した情報教育の学習環境の充実を図る。また、小学校体育連盟が実施する水泳記録会、陸上記録会に係る経費の補助を行い、スポーツの振興を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
小学校体育連盟事業(水泳・陸上記録大会)対象児童数	人	1,159	1,063	1,200	88.6%	1,200	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	教育用コンピュータ借上げ業務	対象校数	校	11	11	11	A	◎
		事業費	千円	12,650	12,221	9,039		
2	自動車借上げ業務	参加校	校	11	11	11	A	○
		事業費	千円	1,362	1,316	1,566		
3	小学校体育連盟補助業務	大会回数	回	2	2	2	B	
		事業費	千円	55	55	55		
4	小学校振興庶務業務	事業費	千円	663	1,065	1,138	B	
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計(千円) A				14,730	14,657	11,798		
職員人件費等		業務量(人工数)		0.60人	0.65人	【業務評価】		
		人件費(千円) B		3,418	3,785	A: 達成済 目標水準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 F: 一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費(千円) A+B				18,148	18,442			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		18,148	18,442			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
教育用コンピュータは、情報教育等の推進に必要な不可欠な機器であり、不具合なく安定したネットワーク環境を確保することは、充実した学習環境の提供に必要な業務である。また、水泳記録会や陸上記録会に対する支援は、児童の教育環境の充実を図るために必要な業務である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 コンピュータ機器の借上げは、情報教育等の推進に有効に活用されている。 また、小学校体育連盟が実施する水泳記録会や陸上記録会は、市内各校より多数の児童が参加しており、スポーツを通じ学校間の交流や向上心を養うことに寄与している。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 授業で使用するパソコン機器の借上げやスポーツの大会開催を補助するなど、教育環境の整備・充実が必要であり適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 パソコン機器等の環境整備については、市が主体性をもって実施する必要があり、スポーツの大会開催に伴う自動車の借り上げや団体（小学校体育連盟）補助についても、児童のスポーツ振興に寄与しており妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 6 -	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601	
事務事業名	就学援助事業（小学校）		担当課	教育総務課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 2	小学校費	
				目 2	教育振興費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち		第2次総合計画 114頁
	重点目標			人間性を育み可能性を高めるために		
	政策			教育環境の充実		

対象	児童及び保護者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	学校教育法第19条の規定に基づき、就学困難な児童の保護者に対し必要な援助を行い、義務教育を経済的理由に左右されることなく安心して受けられるようにする。
事務事業の概要	経済的理由により就学上困難のある児童（要保護者、準要保護者）の保護者に対し、学用品費をはじめ給食費、修学旅行費等の必要な援助を行い、適切な就学の機会を確保する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
就学援助認定率	%	26.32	25.46	-	-	-	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	就学援助費補助	支給人数	人	700	660	—	B	◎
		事業費	千円	44,024	46,357	38,000		
2	特別支援教育就学奨励費補助	支給人数	人	32	28	—	B	○
		事業費	千円	999	917	1,650		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				45,023	47,274	39,650		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.40人	0.40人		【業務評価】	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し
		人件費（千円） B		2,832	2,854			
人件費を含む総事業費（千円） A+B				47,855	50,128			
財源内訳		国庫支出金		498	394			
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		47,357	49,734			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
経済的理由により就学が困難な生徒が等しく教育を受ける機会を逸することがないように継続した支援が必要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 就学援助事業における対象者の認定については、規則等に基づき適正に認定されているが、認定率は県内でも高い状況にあることから、認定基準等の見直しが必要である。 なお、新入学児童生徒学用品費等（入学準備金）については、真に必要な時期に支援できるよう、平成29年度より平成30年度入学予定者への入学前（H30.2月）支給を実施。また、平成30年度より認定基準の見直しをはじめ就学援助制度の総合的な見直しを実施の予定。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 経済的な理由により就学が困難と認められる世帯への学用品費や給食費等、就学に必要な経費の一部を援助することは、保護者負担の軽減にも寄与しており有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 経済的理由に左右されず義務教育を等しく受けられるよう支援することは適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 7 -	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	中学校管理事務費(施設管理)		担当課	教育総務課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 3	中学校費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	コード	2		
	政策	コード	2		
					第2次総合計画 114頁

対象	市立中学校、生徒及び教職員	意図 (対象をどのようにしたいのか)	生徒及び教職員が安全・安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。
事務事業の概要	学校施設の修繕箇所については危険度を十分に把握し優先度の高い箇所から順次実施するとともに、設備機器の保守点検等も含め、施設の適切な維持管理に努める。また、学校管理備品については計画的に購入するなど、予算の適正な支出に努める。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
施設に係る損害賠償事故件数	件	0	0	0	100.0%	0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	施設の修繕業務	修繕件数	件	94	96	—	A	◎
		事業費	千円	7,948	6,241	6,102		
2	施設の維持管理や設備機器の保守点検	事業費	千円	5,646	5,155	5,521	A	○
3	学校管理備品購入業務	購入件数		59	37	46	A	
		事業費	千円	4,927	4,650	2,950		
4	中学校庶務業務	事業費	千円	31,258	35,952	34,897	B	
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計(千円)				A	49,779	51,998	49,470	
職員人件費等		業務量(人工数)		1.10人	1.10人	【業務評価】 A: 達成済 目標準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 —: 一時的に実施無し		
		人件費(千円)		5,714	4,864			
人件費を含む総事業費(千円)				A+B	55,493	56,862		
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他			713	721		
		一般財源		54,780	56,141			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
中学校施設の保守・維持管理は、生徒及び教職員等に安全・安心な学校生活を提供するために重要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 学校施設の修繕の必要な箇所は、施設の老朽化に伴い増加傾向にある。施設の定期的な点検等を行うなど危険箇所の早期発見に努めるとともに、修繕の必要な箇所については、緊急度の高い箇所から優先的に順次対応することで、指標にも定める学校管理下での事故等の発生に伴う損害賠償事故を発生させないよう対応していく。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 安心・安全な学校生活を維持するため、施設をより適切な状態に保つことが重要であり、そうした学校環境を維持していくために重要な業務である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市立の施設等設置主体が適切に維持管理することは適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 8 - 1	作成者氏名	大隅 正宏	連絡先	0833-74-3602
事務事業名	中学校管理事務費（学校保健）		担当課	学校教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 3	中学校費
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち	
	重点目標	2		人間性を育み可能性を高めるために	
	政策	1		質の高い教育の推進	
					第2次総合計画 110頁

対象	生徒・教職員	意図 (対象をどのようにしたいのか)	生徒が健康に学校生活を送ることができ、快適な環境で過ごすことができる。また、教職員が健康を維持し学校教育を推進することができる。
事務事業の概要	生徒・教職員が健康な学校生活を送るために、定期健康診断を行い、適切な衛生環境を保ち、生徒の健康を保持するため、学校薬剤師による検査等を行う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
生徒定期健康診断受診率	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	
教職員健康診断受診率	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	生徒定期健康診断業務 ●	生徒健康診断	校	5	5	5	A	◎
		事業費	千円	8,519	8,457	8,580		
2	教職員の健康診断業務 ●	教職員健康診断	校	5	5	5	A	○
		事業費	千円	1,773	1,751	2,166		
3	環境衛生管理業務 ●	検査実施	校	5	5	5	A	
		事業費	千円	529	530	531		
4	中学校保健庶務業務	事業費	千円	854	619	941	A	
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A					11,675	11,357	12,218	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.20人	0.35人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		1,416	2,497			
人件費を含む総事業費（千円） A + B					13,091	13,854	A：達成済 B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 F：一時的に実施無し	
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		13,091	13,854			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
生徒の健康診断は、学校安全法に基づき実施されるものであり、生徒が健全な学校生活を送るうえで重要な業務である。教職員についても、疾病の早期発見及び生活習慣の改善等、自己の健康管理に対する意識改革を促し、生徒への適切な指導に取り組むことができる。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 生徒、教職員の受診率は100%であり、疾病の早期発見、早期治療の体制が整備されている。また、自己の体調管理に対する意識づけも図られているが、教職員の心の健康チェックについては、ストレスチェックを平成28年度から実施した。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 学校保健安全法に基づき実施され、公立学校における生徒及び教職員の健康管理は必要な業務である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 法令に基づき実施する事業であり、市による事業の執行は妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 8 - 2	作成者氏名	門岡 裕二	連絡先	0833-74-3602
事務事業名	中学校管理事務費（知能検査）		担当課	学校教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 3	中学校費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 質の高い教育の推進
	重点目標		2		
	政策		1		
					第2次総合計画 110頁

対象	中学校	意図 (対象をどのようにしたいのか)	生徒の学習定着度、適性を把握し、その後の学習指導に役立てる
事務事業の概要	生徒の適性等を把握し、その後の学習指導や生活指導、進路指導等に役立てるため、中学校1年に知能検査、2年に進路適性検査を実施する		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
実施校の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	知能検査等業務	実施校	校	5	5	5	B	◎
		事業費	千円	1,173	437	258		
2		事業費	千円					
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				1,173	437	258		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.05人	0.05人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		354	357	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 F：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円） A + B				1,527	794			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		1,527	794			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
定期的に検査を実施することで、生徒一人一人の認知傾向や特性等を把握し、個に応じたきめ細かな生活指導や学習指導等に役立てていくためにも重要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 市内全5中学校において確実に実施されており、結果を分析し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導につながっている。進路適性検査等、客観的な資料を基に生徒一人ひとりの特性を知ることができ、日々の指導や進路選択等に役立っている。また、生徒自身の自己理解へもつながっている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 客観的な資料を基に生徒一人ひとりの適正把握を確実にし、指導にいかしていくことは必要な業務である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市内生徒の特性等を把握し、その後の生活指導や学習指導等にいかすために必要な検査であるという理由から、市が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 8 -	作成者氏名	川村 彰	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	中学校整備事業	担当課	教育総務課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 3	中学校費
				目 1	学校管理費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	コード	2		
	政策	コード	2		
					第2次総合計画 114頁

対象	生徒及び教職員等	意図 (対象をどのようにしたいのか)	施設の老朽化に伴い、必要な改修及び整備を行うことで、生徒及び教職員等が学校生活を安全・快適に送ることができる環境を整える。
事務事業の概要	生徒及び教職員等が安全な学校生活を過ごせる教育環境を整備するため、引き続き、計画的な改修工事を実施し、学校施設の安全性及び快適性を確保する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
改修工事件数（耐震化以外）	件	1	1	1	100.0%	2	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務		
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標				
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算				
1	屋上防水等工事実施設計委託	●	設計件数	件	—	1	—	A		
			事業費	千円	—	594	—			
2	屋上防水等工事	●	工事件数	件	—	1	—	A		
			事業費	千円	—	16,200	—			
3	トイレ改修工事実施設計委託	●	設計件数	件	—	2	1	A	○	
			事業費	千円	—	3,035	1,700			
4	トイレ改修工事	●	工事件数	件	1	—	2	—	◎	
			事業費	千円	29,775	—	75,000			
5			事業費	千円						
6			事業費	千円						
7			事業費	千円						
8			事業費	千円						
9			事業費	千円						
10			事業費	千円						
11			事業費	千円						
12			事業費	千円						
13			事業費	千円						
14			事業費	千円						
15			事業費	千円						
直接事業費の合計（千円）					A	29,775	19,829	76,700		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.60人	0.40人	【業務評価】 A：達成済 目標準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し				
		人件費（千円）		B	4,249				2,854	
人件費を含む総事業費（千円）					A + B	34,024	22,683			
財源内訳			国庫支出金							
			県支出金							
			地方債		28,200	18,700				
			その他							
		一般財源		5,824	3,983					

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
学校施設を管理していくうえで、生徒及び教職員等が学校生活を安全に過ごせるための環境整備は最優先課題である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 老朽化した学校施設の安心・安全を確保するため、屋上防水等工事をはじめトイレ改修等を年次的・計画的に実施しており、本事業は適切に遂行されている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 コンクリートの劣化を抑止するための屋上防水等工事をはじめトイレ改修の実施は、安心・安全な教育環境整備のために有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 行政によるハード面の整備、学校による避難訓練や災害に対する啓発活動等実施されており、適切に行われている。また、屋内運動場は各地区の避難所に指定されていることから、学校と地域住民の災害時における連携活動も実施している。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 9 -	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	中学校教育振興事務費	担当課	教育総務課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 3	中学校費
				目 2	教育振興費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 教育環境の充実
	重点目標	2			
	政策	2			
					第2次総合計画 114頁

対象	生徒及び教職員	意図 (対象をどのようにしたいのか)	生徒及び教職員に充実した学習環境を提供し、学校教育の振興を図る。
事務事業の概要	教育用コンピュータの整備など、生徒に充実した情報教育の学習環境の充実を図る。また、教育振興に関する事業活動を展開する団体等に助成を行い、生徒の学校教育の振興に資する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
補助事業数	事業	6	6	6	100.0%	6	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	教育用コンピュータ借上げ業務	対象校数	校	5	5	5	A	◎
		事業費	千円	8,723	7,821	5,752		
2	自動車借上げ業務	参加校	校	5	5	5	A	○
		事業費	千円	203	203	281		
3	中学校生徒会リーダー研修会補助金	研修回数	回	1	1	1	B	
		事業費	千円	112	112	112		
4	中学校体育連盟補助金	参加県大会数	回	2	2	2	B	
		事業費	千円	2,300	2,300	2,300		
5	中学校文化連盟補助金	参加大会数	回	2	2	2	B	
		事業費	千円	733	733	733		
6	中学校保健体育部活動費補助金	対象学校数	校	5	5	5	B	
		事業費	千円	563	563	563		
7	中国・全国大会選手派遣費補助金	対象学校数	校	5	5	5	B	
		事業費	千円	1,300	1,300	1,300		
8	夜光ベスト購入費補助金	交付学校数	校	4	4	4	B	
		事業費	千円	46	47	72		
9	中学校振興庶務業務						B	
		事業費	千円	895	1,539	1,731		
10								
11								
12								
13								
14								
15								
直接事業費の合計（千円） A				14,875	14,618	12,844		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.80人	0.65人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		4,835	3,785			
人件費を含む総事業費（千円） A+B				19,710	18,403			
財源内訳		国庫支出金				A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 F：一時的に実施無し		
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		19,710	18,403			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
教育用コンピュータは、情報教育等の推進に必要な不可欠な機器であり、不具合なく安定したネットワーク環境を確保することは、充実した学習環境の提供に必要な業務である。また、生徒会活動や部活動に対する支援は、いずれも生徒の教育環境の充実を図るために必要な業務である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 補助団体より提出される実績報告より事業内容と補助額の十分な精査が必要である。また、コンピュータ機器等は、授業に有効活用されており、生徒の主体的な学習に寄与している。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 生徒に充実した学習環境を提供していく上で、授業に使用するコンピュータ機器等の借上げや各種団体が行う教育振興事業への補助は必要であり、事務事業の構成は適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 生徒の学習環境を整備し、学校教育の振興を図る本事業は、市が主体となって整備する必要がある。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1020 - 9 -	作成者氏名	大隅 正宏	連絡先	0833-74-3602	
事務事業名	中学校教育振興事務費	担当課	学校教育課			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 3	中学校費	
				目 2	教育振興費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち		第2次総合計画 114頁
	重点目標			人間性を育み可能性を高めるために		
	政策			教育環境の充実		

対象	中学校生徒	意図 (対象をどのようにしたいのか)	生徒が怪我等の際の適切な保障の実施
事務事業の概要	市内5中学校における校外活動（クラブ活動等）に係る普通傷害保険及び施設賠償責任保険への加入により保護者負担の軽減を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
加入校の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	賠償責任保険料	実施校	校	5	5	—	E	◎
		事業費	千円	282	415	—		
2		事業費	千円					
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				282	415			
職員人件費等		業務量（人工数）		0.05人	0.05人	【業務評価】 A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
		人件費（千円） B		354	357			
人件費を含む総事業費（千円） A + B				636	772			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		636	772			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
保険者負担の軽減及び学校施設の瑕疵等による事故への対応に必要な業務である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 市内全中学校（5校）が加入しており、100%の達成度であるが、他の保険制度（災害共済給付制度）と重複する部分が多く、平成30年度から廃止する。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 保険者負担の軽減が図られており、業務としては有効性がある。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 学校施設の瑕疵等による事故への対応に必要な事業であり、市が実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	和田 明俊	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 10 -	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601	
事務事業名	就学援助事業(中学校)		担当課	教育総務課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 3	中学校費	
				目 2	教育振興費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち		第2次総合計画 114頁
	重点目標			人間性を育み可能性を高めるために		
	政策			教育環境の充実		

対象	生徒及び保護者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	学校教育法第19条の規定に基づき、就学困難な生徒の保護者に対し必要な援助を行い、義務教育を経済的理由に左右されることなく安心して受けられるようにする。
事務事業の概要	経済的理由により就学上困難のある生徒（要保護者、準要保護者）の保護者に対し、学用品費をはじめ給食費、修学旅行費等の必要な援助を行い、適切な就学の機会を確保する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
就学援助認定率	%	28.15	27.80	—	—	—	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	就学援助費補助	支給人数	人	411	395	—	B	◎
		事業費	千円	40,415	44,288	33,100		
2	特別支援教育就学奨励費補助	支給人数	人	16	13	—	B	○
		事業費	千円	710	733	1,250		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				41,125	45,021	34,350		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.40人	0.40人		【業務評価】	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し
		人件費（千円） B		2,832	2,854			
人件費を含む総事業費（千円） A+B				43,957	47,875			
財源内訳		国庫支出金		381	302			
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		43,576	47,573			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
経済的理由により就学が困難な生徒が等しく教育を受ける機会を逸することがないように継続した支援が必要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 就学援助事業における対象者の認定については、規則等に基づき適正に認定されているが、認定率は県内でも高い状況にあることから、認定基準等の見直しが必要である。 なお、新入学児童生徒学用品費等（入学準備金）については、真に必要な時期に支援できるよう、平成29年度より平成30年度入学予定者への入学前（H30.2月）支給を実施。また、平成30年度より認定基準の見直しをはじめ就学援助制度の総合的な見直しを実施の予定。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 経済的な理由により就学が困難と認められる世帯への学用品費や給食費等、就学に必要な経費の一部を援助することは、保護者負担の軽減にも寄与しており有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 経済的理由に左右されず義務教育を等しく受けられるよう支援することは適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	630 - 13 -	作成者氏名	升 克頼	連絡先	0833-74-3005	
事務事業名	幼稚園運営事業	担当課	子ども家庭課			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 4	幼稚園費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち		第2次総合計画 108頁
	重点目標	1		安心して子どもを生み育てるために		
	政策	3		保育・幼児教育の充実		

対象	公立幼稚園に通う入園児童及び保護者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	質の高い幼児教育を受ける
事務事業の概要	公立幼稚園の運営、教育活動及びその活動に要する付帯事務（教育用品の購入や平易な修繕、樹木等剪定及び警備委託などの施設維持管理業務）		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
公立幼稚園通園児数	人	17	33	-	-	-	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	つるみ幼稚園運営業務	1日当たり開園時間	時間	6	6	—	E	
		事業費	千円	1,668	1,641	—		
2	やよい幼稚園運営業務	1日当たり開園時間	時間	6	6	6	B	
		事業費	千円	1,499	1,740	2,291		
3	さつき幼稚園運営業務	1日当たり開園時間	時間	6	6	—	E	
		事業費	千円	685	488	—		
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				3,852	3,869	2,291		
職員人件費等		業務量（人工数）		4.15人	4.15人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		29,386	29,610	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善		
人件費を含む総事業費（千円） A + B				33,238	33,479	C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し		
財源内訳		国庫支出金				D：業務廃止・完了の意向		
		県支出金		53	49	E：29年度を以て廃止・終了		
		地方債				—：一時的に実施無し		
		その他		1,013	2,268			
		一般財源		32,172	31,162			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
幼稚園運営事業は、開園している園では同等の保育提供を行うことから、重点化する業務を選択できない。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 適切な教育環境という視点から、入園児童数の減少は、集団の形成が困難となるという問題がある。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 さつき幼稚園については園児数が減少し、今後の入園見込が極めて少ないことから、平成26年4月1日から休園している。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市で行う事業の管理であるため、市で行うことが妥当。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	西村 功	最終評価責任者 （部長名）	都野 悦弘
--------------------	------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 1 -	作成者氏名	山門 俊郎	連絡先	0833-74-3604
事務事業名	社会教育推進事業		担当課	文化・社会教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費
第2次総合計画	基本目標	コード	1	項目	限らない市民力・地域力がゆたかに花開くまち
	重点目標		2		市民力向上のために
	政策		1		生涯学習社会の推進
				目 1	社会教育総務費
					第2次総合計画 90頁

対象	一般市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	教養の向上、健康の増進等を図り、社会を形成する自立した個人を育成し、人と人との絆を強化する。
事務事業の概要	中学生リーダー養成講座・光ジュニアクラブ、子育て講座、少年少女セミナーなどの実施及び社会教育団体への補助金交付を通じた社会教育、家庭教育支援の推進		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
各種講座参加者数（延べ）	人	1,600	1,588	1,600	99.3%	1,600	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位 単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	「子育て講座」の開催 ●	講座開催数 事業費	回 千円	11 140	12 141	13 190	A	○
2	「少年少女セミナー」の開催 ●	講座開催数 事業費	回 千円	5 90	8 131	8 153	A	
3	「中学生リーダー養成講座・光ジュニアクラブ」の実施 ●	講座開催数 事業費	回 千円	13 392	13 412	13 382	A	◎
4	「成人大学講座」の開催 ●	講座開催数 事業費	回 千円	7 234	7 216	7 215	B	
5	「伊藤公カップ英語スピーチコンテスト」の実施 ●	参加者数 事業費	人 千円	20 84	21 35	20 46	B	
6	「『小さな親切』運動光支部」に対する運営補助 ●	「小さな親切」実行章 事業費	件 千円	79 40	70 40	80 40	A	
7	「光市小・中学校PTA連合会」に対する運営補助 ●	事業実施回数 事業費	回 千円	16 125	18 112	18 112	B	
8	「光市民憲章推進協議会」に対する運営補助 ●	光市民憲章運動実践 指定校の数 事業費	校 千円	2 396	2 396	2 396	A	
9	「光市連合婦人会」に対する運営補助 ●	会員数 事業費	人 千円	170 250	163 250	170 250	D	
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	1,751	1,733	1,784	
職員人件費等		業務量（人工数）		0.63人	0.80人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	4,461	5,708	A：達成済 目標水準プラス見直し	
人件費を含む総事業費（千円）				A+B	6,212	7,441	B：実施手法の要改善	
財源内訳		国庫支出金				C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し		
		県支出金		145	160	D：業務廃止・完了の意向		
		地方債				E：29年度を以て廃止・終了		
		その他		83	103	—：一時的に実施無し		
		一般財源		5,984	7,178			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
中学生リーダー養成講座・光ジュニアクラブは、学校以外の場所で中高生が地域社会とのつながりの中で、ボランティア活動等を通じ、社会教育、地域活動の担い手・リーダーとしての人材育成につながるため最重点業務とする。また、近年は、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立するなど家庭教育が困難な状況もあり、子育て、家庭教育支援の充実につながる子育て講座の開催を重点化業務とした。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 指標としている各種講座参加者数（延べ）は、前年度に比べ減少しているが、今後も、ニーズの的確な把握に努めながら実施し、参加者の増加につなげたい。家庭教育支援チーム（モデル事業）の検証を踏まえ、計画的に家庭教育支援チームを設置し、保護者が家庭教育に関する学習や相談ができるよう、学校・家庭・地域の連携による家庭教育の仕組みづくりを進める必要がある。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 社会教育、家庭教育の推進に係る各種講座の開催及び社会教育関係団体への支援に係る業務で構成されており、有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 社会教育や家庭教育の推進に係る導入、啓発については行政が担うべき役割である。また、これらの推進に関わる各種社会教育関係団体に対する財政的支援は、事業内容に応じた支援であり、現状では妥当であると考え。成人大学の実施については、その内容を鑑み今後の実施の在り方について、研究する必要がある。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	原田 啓志	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 2 -	作成者氏名	山門 俊郎	連絡先	0833-74-3604
事務事業名	青少年健全育成事務費		担当課	文化・社会教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費
目 2	青少年健全育成費				
第2次総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち
	重点目標	2			人間性を育み可能性を高めるために
	政策	4			青少年の健全育成
					第2次総合計画 118頁

対象	青少年及び一般市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	社会全体で次世代を担う青少年の健全育成に向けた機運の醸成を図る。
事務事業の概要	「ヤングテレホン」の実施、有害図書等の回収、登下校の見守り活動などの青少年健全育成事業の実施及び青少年センターの運営		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
ヤングテレホン実施件数	件	18	32	50	64.0%	50	
有害図書等回収件数	件	2,321	2,713	2,700	100.5%	2,700	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)	業務評価	重点業務					
					指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標
1	ヤングテレホンの実施 ●	相談件数 事業費	件 千円	18 80	32 80	50 84	B	◎	
2	有害図書等の回収 ●	有害図書等回収ポスト設置数 事業費	箇所 千円	8 0	8 0	8 0	A	○	
3	メロディパトロールの実施 ●	実施回数 事業費	回 千円	197 235	196 203	196 260	B	○	
4	オリエンテーリングパーマネントコース整備業務 ●	草刈等実施回数 事業費	回 千円	2 128	4 128	4 129	B		
5	周南広域校外補導連絡協議会負担金 ●	協議会実施回数 事業費	回 千円	3 50	3 50	3 50	B		
6	青少年センター庶務業務	事業費	千円	315	2,022	2,055	A		
7	旧勤労青少年ホーム解体事業 ●	事業費	千円	—	1,598	38,167	A		
8		事業費	千円						
9		事業費	千円						
10		事業費	千円						
11		事業費	千円						
12		事業費	千円						
13		事業費	千円						
14		事業費	千円						
15		事業費	千円						
直接事業費の合計(千円) A				808	4,081	40,745			
職員人件費等		業務量(人工数)		1.18人	1.23人		【業務評価】		
		人件費(千円) B		3,617	3,973		A: 達成済 目標準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 —: 一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費(千円) A+B				4,425	8,054				
財源内訳		国庫支出金							
		県支出金							
		地方債			1,400				
		その他							
		一般財源		4,425	6,654				

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
ヤングテレホンの実施は、悩みを持つ青少年の第1次的な相談窓口であることから、本事業の最重点業務と考え、取組みを進める。有害図書等の回収については、警察と連携した「こども環境クリーンアップ立入調査」の実施と併せ、白ポストによる有害図書等の氾濫防止に努める。メロディパトロールの実施については、児童・生徒の安全確保、地域見守り体制の構築の重要な取組みであるため、重点業務とする。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 ヤングテレホン、他の相談体制や相談機関の充実もあるが、匿名の電話で気軽に相談できる制度の一つとして今後も利用促進に向けての周知が必要である。有害図書等の回収については、警察と連携した「こども環境クリーンアップ立入調査」の実施や白ポスト制度の周知を図り、適正な運用に努めたい。メロディパトロールの実施は、地域見守り体制の構築により、児童・生徒の安全確保が図られている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 本事業については、内部事務経費を主として構成されるものであるが、ヤングテレホン、メロディパトロール等青少年健全育成活動の実務的な活動と考えられる業務も含めて構成されている。しかしながら、ヤングテレホン、メロディパトロール等は通信運搬費や燃料費等内部事務経費と明確に区別することが困難な状況であることから、現状で継続とする。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 青少年健全育成に係る、内部事務的経費が主であり、現時点における本事業の実施については妥当と考える。なお、メロディパトロールの実施については、青少年健全育成地区会議及びコミュニティ協議会青少年部等においても実施しており、適切な役割分担・連携のもと事業が実施されている。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 3 -	作成者氏名	山門 俊郎	連絡先	0833-74-3604	
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課	文化・社会教育課			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費	
				目 2	青少年健全育成費	
第2次 総合計画	基本目標	コード 2 2 4	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち		第2次総合計画 118頁
	重点目標			人間性を育み可能性を高めるために		
	政策			青少年の健全育成		

対象	青少年及び一般市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	社会全体で次世代を担う青少年の健全育成に向けた機運の醸成を図る。
事務事業の概要	青少年問題協議会は、青少年育成に関する諸問題に対する協議を行うとともに、青少年健全育成市民会議及び補導委員連絡協議会等の各種団体の育成、及び、これらの団体と連携し、あいさつ運動や街頭補導活動等、行政と地域が一体となった事業の展開を図り、市民の間に青少年健全育成の気運を醸成する。また、「専門家による教育相談」等を通じて、悩みを抱える青少年等に対する相談体制を整備するとともに、「クリーン光大作戦」や「成人のつどい」の実施により、青少年と社会のつながりを強化する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
クリーン光大作戦参加者	人	16,522	15,869	16,600	95.6%	16,900	
専門家による教育相談相談者数	人	26	29	30	96.7%	30	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務		
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標				
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算				
1	「青少年問題協議会」の開催	●	会議研修会回数	回	2	2	1	A	◎	
			事業費	千円	117	148	107			
2	「専門家による教育相談」の実施	●	相談会実施回数	回	11	11	11	A	○	
			事業費	千円	245	245	246			
3	「成人のつどい」の実施		参加者数	人	436	438	450	A		
			事業費	千円	1,046	1,062	1,111			
4	ガールスカウト補助金	●	会員数	人	23	22	25	A		
			事業費	千円	41	41	41			
5	ボーイスカウト補助金	●	会員数	人	104	101	110	A		
			事業費	千円	54	54	54			
6	子ども会育成連絡協議会補助金	●	会員数	人	1,598	1,458	1,500	B		
			事業費	千円	300	270	270			
7	青少年健全育成市民会議補助金等	●	会員数	人	17,340	17,389	17,500	A		
			事業費	千円	1,382	1,354	1,354			
8	校外補導経費交付金	●	重点的な補導活動実施回数	回	16	16	16	A		
			事業費	千円	130	130	130			
9	青少年補導委員連絡協議会補助金等	●	補導活動実施回数	回	148	157	160	A		
			事業費	千円	384	417	443			
10	ヤングテレホンの周知	●	配布回数	回	1	1	1	A		
			事業費	千円	83	0	0			
11	クリーン光大作戦	●	参加者数	人	16,522	15,869	16,000	A	○	
			事業費	千円	0	0	0			
12			事業費	千円						
13			事業費	千円						
14			事業費	千円						
15			事業費	千円						
直接事業費の合計（千円）			A		3,782	3,721	3,756			
職員人件費等			業務量（人工数）		1.44人	1.49人		【業務評価】		
			人件費（千円）	B	5,458	5,828		A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円）			A+B		9,240	9,549				
財源内訳			国庫支出金							
			県支出金							
			地方債							
			その他							
			一般財源			9,240	9,549			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
青少年問題協議会は、これまで「心を磨く清掃活動」や「家庭でできる5S活動」に取組み、平成28年度からは、キーワードを「自主性」として、各地区における「児童生徒の地域貢献活動」を推進するなど、市内の青少年の健全育成を図るための施策を協議する重要な機関であり、最も重点的に取り組むこととする。また、不登校やいじめなど青少年期の多様な問題に対応するための専門家による教育相談・青少年健全育成活動としてクリーン光大作戦に重点的に取り組むこととする。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 青少年問題協議会は、平成28年度から新たに自主性を促す取組みとして「児童生徒の地域貢献活動」について理解を深めた。クリーン光大作戦は、参加者数が減少したが、より実効性のある体制とするため、協議会の運営方法を見直した。専門家による教育相談相談者数は、事業の周知により、増加した。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 青少年健全育成の推進を図るためには、市民の参画をより高める必要がある。関係団体に対する運営補助等、事務事業の大部分が関係団体の活動を活性化するためのものであり、事務事業の構成は適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 青少年健全育成は行政のみではなく、社会全体で取り組むべきテーマである。関係諸団体と連携を図りながら、各種事業に対する市民参画をさらに推進することで、社会全体で青少年を育成するための環境づくりに取り組む必要がある。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	原田 啓志	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 4 -	作成者氏名	山門 俊郎	連絡先	0833-74-3604	
事務事業名	放課後児童クラブ管理運営事業		担当課	文化・社会教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費	
				目 2	青少年健全育成費	
第2次総合計画	基本目標	コード	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち			第2次総合計画 105頁
	重点目標	1	安心して子どもを生み育てるために			
	政策	2	子育て支援の充実			

対象	保護者が昼間就労等で保育できない小学校児童	意図 (対象をどのようにしたいのか)	支援員の適切な支援のもと、安心・安全に放課後や長期休業中を過ごすことができる。
事務事業の概要	保護者等が昼間就労等で保育できない小学校児童の保育を実施し、放課後等における児童の健全育成を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
待機児童数	人	0	0	0	100.0%	0	
放課後児童クラブ支援員研修回数	回	10	9	10	90.0%	10	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	放課後児童クラブ管理運営事業 ●	設置数	箇所	13	13	13	B	◎
		事業費	千円	54,731	59,388	59,783		
2	世代間交流事業	実施回数	回	12	11	12	B	
		事業費	千円	24	22	72		
3	放課後児童クラブ支援員研修事業	実施回数	回	10	9	10	B	○
		事業費	千円	0	16	0		
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A					54,755	59,426	59,855	
職員人件費等		業務量（人工数）		2.43人	2.92人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		11,615	12,914	A：達成済 目標水準プラス見直し		
人件費を含む総事業費（千円） A+B				66,370	72,340	B：実施手法の要改善		
財源内訳		国庫支出金		12,733	14,458	C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し		
		県支出金		12,733	14,458	D：業務廃止・完了の意向		
		地方債				E：29年度を以て廃止・終了		
		その他		16,913	17,253	—：一時的に実施無し		
		一般財源		23,991	26,171			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に適切な遊びや生活の場を与え、放課後等における児童の健全育成を図るために最重点化業務とし、保育の質の向上や配慮を要する児童への理解や育成支援等には、研修等による人材育成が重要であることから重点的に取り組むこととする。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 待機児童を出さず原則全員受入れし、対象児童の拡大や保育時間の午後7時までの延長など、子育て支援と児童の健全育成に努めている。また、保育の質の向上を図るため、指導員研修の実施や嘱託職員を配置した。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 放課後児童クラブの運営に関する業務で構成されており、適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市が実施主体となって進めているが、学校の長期休業中は指導員の勤務が長時間となるためシルバー人材センターに保育支援員の派遣を委託し、業務を行っている。指導員の人員不足は慢性的に発生しているため、人員確保の方策について、調査・研究する必要がある。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 5 -	作成者氏名	山門 俊郎	連絡先	0833-74-3604
事務事業名	教育支援活動促進事業		担当課	文化・社会教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費
				目 2	青少年健全育成費
第2次総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち
	重点目標		2		人間性を育み可能性を高めるために
	政策	ド	3		地域ぐるみの教育の推進
					第2次総合計画 116頁

対象	児童・生徒	意図 (対象をどのようにしたいのか)	地域の人々の協力を得ながら、安全・安心な子どもの居場所を確保するとともに、学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを整備する。
事務事業の概要	放課後子ども教室は、放課後や週末等に安全・安心な子どもの居場所を設け、勉強やスポーツ・文化活動等を通じて、子どもたちが心豊かで健やかに成長するための環境づくりを推進する。地域学校協働活動推進事業は、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを整備する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
放課後子ども教室参加者数	人	3,382	3,469	3,480	99.7%	3,490	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標	業務評価	重点業務
				28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	放課後子ども教室推進事業 ●	開設日数	日	131	131	130	B	○
		事業費	千円	1,664	1,662	1,771		
2	地域学校協働活動推進事業 ●	実施中学校区数	校	5	5	5	A	◎
		事業費	千円	830	832	906		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計(千円) A				2,494	2,494	2,677		
職員人件費等				業務量(人工数)	0.38人	0.48人	【業務評価】	
				人件費(千円) B	2,691	3,425		
人件費を含む総事業費(千円) A+B				5,185	5,919		A: 達成済 目標水準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 —: 一時的に実施無し	
財源内訳				国庫支出金				
				県支出金	1,662	1,638		
				地方債				
				その他				
一般財源				3,523	4,281			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
地域学校協働活動推進事業は、コミュニティ・スクールの取組みと合わせて、学校・家庭・地域が効果的に融合して、学校支援、地域活動の活性化を図るとともに地域の担い手となる人材育成など、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを整備することから最重点化業務として取り組むこととする。放課後子ども教室推進事業は、子どもの安心・安全な居場所づくりと心豊かで健やかに成長するための環境づくりの観点から必要であるため、重点的に取り組むこととする。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 放課後子ども教室推進事業は、参加者数は増加しているが、未実施地区の解消を含め、メニューの工夫など、更なる参加者増加が図られるよう取組みが必要である。また、特に成果指標は設定していないが、地域学校協働活動推進事業は、全ての中学校区において、統括コーディネーターを配置し、コミュニティ・スクールとの連携のもと、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる環境を整備した。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを整備するためには、統括コーディネーターの配置が有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 両業務とも、補助事業であり、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てることが重要なことから、市が実施主体となることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 6 -	作成者氏名	山門 俊郎	連絡先	0833-74-3604	
事務事業名	周防の森ロッジ管理運営事業		担当課	文化・社会教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費	
				目 2	青少年健全育成費	
第2次総合計画	基本目標	コード	ゆたかな人間性と可能性を大切にし心温かい人が育つまち			第2次総合計画 118頁
	重点目標	2	人間性を育み可能性を高めるために			
	政策	4	青少年の健全育成			

対象	青少年及び一般市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	自然環境の中で、自然とのふれあいを通じて豊かな感性とたくましい心身を育み、青少年の健全育成に努める。
事務事業の概要	青少年の集団宿泊訓練、野外活動等を通じて心身の健全な育成を図るとともに、広く一般成人に対して各種教室を開催し、文化の伝承、自然の美しさ、厳しさについて体験を通して学習する機会の提供を行う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
総利用者数	人	12,873	13,007	15,000	86.7%	15,000	
利用者のうち主催事業の参加者	人	1,738	1,859	1,800	103.3%	1,900	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	●	活動指標・事業費（千円）				業務評価	重点業務		
			指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算			30年度目標 30年度予算	
1	主催事業の企画・運営	●	主催事業 事業費	回 千円	173 423	170 386	175 450	B	◎	
2	施設管理業務	●	清掃及び除草作業回数 事業費	回 千円	52 3,184	53 2,997	55 3,062	B		
3	貸館業務		総利用者数 事業費	人 千円	12,873 2,673	13,007 2,736	15,000 2,766	B	○	
4			事業費	千円						
5			事業費	千円						
6			事業費	千円						
7			事業費	千円						
8			事業費	千円						
9			事業費	千円						
10			事業費	千円						
11			事業費	千円						
12			事業費	千円						
13			事業費	千円						
14			事業費	千円						
15			事業費	千円						
直接事業費の合計（千円） A						6,280	6,119	6,278		
職員人件費等		業務量（人工数）			1.38人	1.43人	【業務評価】			
		人件費（千円） B			5,033	5,400	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し			
人件費を含む総事業費（千円） A+B						11,313	11,519			
財源内訳			国庫支出金							
			県支出金							
			地方債							
			その他			339	384			
			一般財源			10,974	11,135			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
主催事業の実施については、豊かな自然環境の中で自然とのふれあいを通して、自然の美しさ・厳しさ等について学習する機会の提供を行うために必要であり、また、新たな利用者確保のためにも重要な取組みであることから、最も重点的に取り組むこととする。貸館業務については、青少年の集団宿泊訓練、野外活動等を通じて心身の健全な育成を図るため、重点的に取り組むこととする。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 野外活動施設という特性上、天候不順等の影響を受け、中止になった事業もあったが、親子ふれあいキャンプ等の新事業の開催により利用者が微増した。青少年活動の野外施設としてのニーズは依然として高く、利用団体の自主的な整備活動等も実施されており有効利用されている。環境整備や魅力ある主催事業の開催に努め、新たな利用者呼び込む工夫を行う必要がある。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 周防の森ロッジの事業企画、施設維持、管理に係る業務で構成されており問題ない。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 施設運営は市であるが、林間道整備等施設管理の一部については子ども会や中学生リーダー等施設利用団体のボランティア活動で行うなど連携して行っている。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 7 -	作成者氏名	村上 巧	連絡先	0833-74-3607
事務事業名	文化財保護事業	担当課	文化・社会教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費
第2次総合計画	基本目標	コード	1	項目	限らない市民力・地域力がゆたかに花開くまち
	重点目標		2		市民力向上のために
	政策		2		文化の振興
				目 3	文化振興費
					第2次総合計画 93頁

対象	文化財、文化財保持者、文化財所有者・保存団体、文化団体、市民ボランティア、事業成果を享受する市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	市民との連携により、市内の文化財や伝統文化等の保存及び普及啓発を促進する。また、市民主体の芸術・文化活動を支援するとともに、後継者の育成に努める。本事業実施により、文化財等に対する市民の関心を高める。
事務事業の概要	地域の文化財や伝統、歴史的資源を次代へ継承していくための取組みや、文化活動並びに地域社会貢献活動への支援を継続するとともに、次代を担う子どもたちを対象とした出前講座の実施や現地学習の機会を創出することで、ふるさとの歴史への誇りや愛着の持てる取組みを推進する。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
文化財保存活用に携わる市民ボランティア	人(延べ)	354	347	360	96.3%	360	
文化団体の育成・支援(後援)	件	51	41	50	82.0%	50	

◆事務事業(予算事業)を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務	
		指標名 事業費	単位 単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算			
1	指定文化財保存活用事業	●	事業件数	件	4	3	4	B	◎
			事業費	千円	285	130	285		
2	史跡石城山神籠石保存活用事業	●	事業件数	件	3	3	4	B	○
			事業費	千円	361	438	361		
3	埋蔵文化財保存活用事業	●	調査・整理復元・活用事業数	件	3	4	3	B	
			事業費	千円	160	52	47		
4	光市文化財審議会運営業務	●	開催数	回	1	1	2	B	
			事業費	千円	51	39	122		
5	歴史文化遺産保存活用事業	●	事業件数	件	3	2	4	B	
			事業費	千円	418	60	90		
6	全国史跡整備市町村協議会に対する負担金	●	加盟市町村数	団体	582	595	593	A	
			事業費	千円	40	40	40		
7	山口県文化財愛護協会に対する負担金	●	加盟団体数(個人含む)	団体	521	530	522	A	
			事業費	千円	4	4	4		
8	山口県市町埋蔵文化財連絡協議会に対する負担金	●	加盟団体数	団体	14	14	14	A	
			事業費	千円	3	3	3		
9	光ユネスコ協会運営補助	●	会員数	人	389	387	400	A	
			事業費	千円	146	146	146		
10	光文化協会運営補助	●	市美展若年層出品数	点	10	17	15	A	
			事業費	千円	179	179	179		
11	国指定文化財管理事業補助	●	補助対象件数	件	1	1	1	A	
			事業費	千円	22	22	22		
12	光市室積山車保存会運営補助	●	祭り参加者数	人	680	715	700	A	
			事業費	千円	146	146	146		
13	周防柱松保存会運営補助	●	会員数	人	633	626	626	A	
			事業費	千円	72	72	72		
14	島田人形浄瑠璃芝居保存会運営補助	●	公演等件数	件	9	6	7	A	
			事業費	千円	202	202	202		
15			事業費	千円					
直接事業費の合計(千円) A						2,089	1,533	1,719	
職員人件費等		業務量(人工数)			1.95人	1.95人	【業務評価】		
		人件費(千円) B			10,193	10,233	A: 達成済 目標水準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 -: 一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費(千円) A+B						12,282	11,766		
財源内訳			国庫支出金						
			県支出金		24	18			
			地方債						
			その他						
			一般財源		12,258	11,748			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
本市の文化財を保存し、後世に継承していくためには、指定文化財を保護するとともに周知に努め、その重要性を認識してもらうことが重要であり、最重点業務としている。また、国指定文化財である史跡石城山神籠石を保存、活用するとともに、重要文化財石城神社や第二奇兵隊関連史跡など、周辺の貴重な歴史的資源を継承することは、市として重要な役割を持つことから重点業務として取り組む。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 文化財等の保存及び普及啓発を促進するとともに、芸術・文化活動の振興及び後継者育成のためには、市民との連携が不可欠であり、その成果を表すものとして指標を設定している。 後援件数については減少しており、支援体制の強化が求められる。また、市民ボランティアも微減の傾向にあり、引き続き、市民との連携を基本として各事業に積極的に取り組むとともに、市民が本市の歴史や文化を学び、体感することにより、愛着と誇りを持てる風土の醸成に努める。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 史跡石城山神籠石保存活用事業や歴史文化遺産保存活用事業を実施する中で、ボランティアなど市民力を活用する必要がある、事務事業がこれらを実現するための業務で構成されており適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 事務事業全体では、市が主体となり進めていくことが適切であるが、市民一人ひとりが歴史的資源の保存・継承の重要性を認識し、積極的に取り組む必要性もあることから、市民及び関係団体等と連携して事業を実施していく必要がある。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 8 -	作成者氏名	村上 巧	連絡先	0833-74-3607
事務事業名	文化センター管理運営事業		担当課	文化・社会教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費
				目 3	文化振興費
第2次総合計画	基本目標	コード	1	限らない市民力・地域力がゆたかに花開くまち	
	重点目標		2	市民力向上のために	
	政策	ド	2	文化の振興	
					第2次総合計画 93頁

対象	文化センター、公益財団法人光市文化振興財団及び文化センターを利用する市民・団体等	意図 (対象をどのようにしたいのか)	文化施設の効果的利用により、文化財や歴史文化等についての保存・継承意識の醸成や各種文化活動の促進並びに発表の場として活用を図るとともに、良好な施設の維持管理を行う。
事務事業の概要	指定管理者と連携を図りながら、企画展や各種展覧会等による市民が文化に触れる機会の提供や、文化活動及び発表の場として活用するとともに、良好な施設の維持管理を行い、市民の文化振興に資する施設としての役割を担う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
入館者（年）	人	19,652	16,453	22,000	74.7%	22,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	●	活動指標・事業費（千円）				業務評価	重点業務	
			指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算			30年度目標 30年度予算
1	文化センター維持管理業務	●	年間入館者数	人	19,652	16,453	22,000	B	◎
			事業費	千円	28,500	28,371	28,666		
2			事業費	千円					
3			事業費	千円					
4			事業費	千円					
5			事業費	千円					
6			事業費	千円					
7			事業費	千円					
8			事業費	千円					
9			事業費	千円					
10			事業費	千円					
11			事業費	千円					
12			事業費	千円					
13			事業費	千円					
14			事業費	千円					
15			事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）					A	28,500	28,371	28,666	
職員人件費等					業務量（人工数）	0.30人	0.35人		【業務評価】
					人件費（千円）	B	2,124	2,497	
人件費を含む総事業費（千円）					A+B	30,624	30,868		
財源内訳					国庫支出金				C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し
					県支出金				
					地方債				
					その他		559	420	
一般財源						30,065	30,448		

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
本市の文化振興を担う拠点のひとつとして、指定管理者と連携し施設の効果的な活用に努めるとともに、市民が快適に利用できる環境を整備するため、重点的に取組む。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 本事業の意図を達成するために設定した成果指標については、目標を下回った。館蔵資料を活用した企画展の開催や、様々なテーマの講座開催など、工夫を凝らしてはいるものの集客に繋がっていないのが現状。今後は、市民ニーズを把握し、事業の立案に生かすとともに、事業実施にあたっては、さらなるPRが必要。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 施設の効果的利用、施設環境整備のための業務で構成されており適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 本事務事業は、市としての主体性を持ちつつ、指定管理者と連携をしていくことが適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 9 -	作成者氏名	村上 巧	連絡先	0833-74-3607
事務事業名	ふるさと郷土館管理運営事業		担当課	文化・社会教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費
				目 3	文化振興費
第2次総合計画	基本目標	コード	1	項目	限らない市民力・地域力がゆたかに花開くまち
	重点目標		2		市民力向上のために
	政策		2		文化の振興
					第2次総合計画 93頁

対象	ふるさと郷土館、公益財団法人光市文化振興財団及びふるさと郷土館を利用する市民・団体等	意図 (対象をどのようにしたいのか)	文化施設の効果的利用により、文化財や伝統文化等についての保存・継承意識の醸成や各種文化活動の促進を図るとともに、良好な施設の維持管理を行う。
事務事業の概要	指定管理者との連携を図りながら、郷土の歴史や伝統文化の継承に努めるとともに、市民の文化活動の発表の場として活用する。また、施設の老朽化が進んでいることから、必要な整備を行う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
入館者（年）	人	7,779	5,438	6,000	90.6%	8,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	●	活動指標・事業費（千円）				業務評価	重点業務	
			指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算			30年度目標 30年度予算
1	ふるさと郷土館維持管理業務	●	開館日数 事業費	日 千円	296 16,352	295 15,286	299 14,617	B	◎
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
直接事業費の合計（千円）			A		16,352	15,286	14,617		
職員人件費等			業務量（人工数）		0.35人	0.35人		【業務評価】 A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
			人件費（千円）	B	2,063	2,071			
人件費を含む総事業費（千円）			A+B		18,415	17,357			
財源内訳			国庫支出金						
			県支出金						
			地方債						
			その他		571	530			
一般財源					17,844	16,827			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
本市の文化振興を担う拠点のひとつとして、指定管理者と連携し施設の効果的な活用に努めるとともに、市民が快適に利用できる環境を整備するため、重点的に取り組む。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 本事業の意図を達成するために設定した成果指標については、目標を下回った。これは臨時開館や開館時間延長等の対応を行った近隣でのイベント時の、前年に対する入館者数の変動が大きな要因であると推察される。今後も、その結果等を踏まえ、施設の魅力の周知方法等について検討する。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 光ふるさと郷土館の効果的利用、施設環境整備のための業務で構成されており適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 本事務事業は、市としての主体性を保ちつつも、指定管理者と連携していくことが適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 10 -	作成者氏名	村上 巧	連絡先	0833-74-3607	
事務事業名	伊藤公資料館管理運営事業		担当課	文化・社会教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費	
				目 3	文化振興費	
第2次総合計画	基本目標	コード	5	産業の活力とにぎわいがゆたかに行き渡るまち 人が行き交い、にぎわうために 観光の振興と交流の促進		第2次総合計画 185頁
	重点目標	ド	2			
	政策		1			

対象	伊藤公資料館、旧伊藤博文邸、伊藤公生家、伊藤公記念公園内の利用者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	施設の良い維持管理を行うとともに、郷土の偉人である伊藤博文の生涯や業績、当時の時代や関係した人物等の理解と関心を高め、本市が生誕地であることを含めて次世代への継承を図る。
事務事業の概要	伊藤博文公の生涯や業績を紹介するとともに、学習会等を開催し周知を図ることにより、郷土の偉人である伊藤公の遺徳の継承に繋げる。また、良好な施設や公園の維持管理を行い、来場者が快適に利用できるよう努める。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
入館者（年）	人	6,885	8,065	8,100	99.5%	8,100	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	伊藤博文公遺徳継承事業 ●	企画展入館者及び講座参加者数	人	2,063	3,053	534	B	◎
		事業費	千円	1,173	1,196	175		
2	伊藤公記念公園駐車場及び駐車場トイレの清掃 ●	実施回数	日	154	155	155	A	
		事業費	千円	612	615	615		
3	伊藤公資料館自家用電気工作物の保安管理 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	104	104	162		
4	伊藤公記念公園浄化槽保守点検業務 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	482	482	482		
5	伊藤公資料館機械設備管理清掃 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	79	79	79		
6	伊藤公資料館建物定期清掃（長契H32.7まで） ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	897	946	977		
7	伊藤公資料館内外清掃 ●	実施回数	日	153	155	153	A	
		事業費	千円	1,465	1,481	1,465		
8	伊藤公資料館機械警備業務（長契H35.2まで） ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	311	310	311		
9	伊藤公資料館屋根軒先清掃 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	87	0	0		
10	伊藤公資料館及び旧伊藤博文邸の消防用設備の保守点検 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	37	37	37		
11	旧伊藤博文邸警備 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	327	327	327		
12	伊藤公資料館映像機器点検 ●	開館日数	日	308	306	307	B	
		事業費	千円	166	202	1,520		
13	伊藤公資料館自動扉定期保守点検 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	74	74	74		
14	伊藤公記念公園管理 ●	作業実施回数	回	3	4	5	A	○
		事業費	千円	778	679	1,184		
15	山口県博物館協会への負担金 ●	会員数	団体	61	63	62	A	
		事業費	千円	12	12	12		
16	その他施設管理業務 ●	開館日数	日	308	306	307	A	
		事業費	千円	9,786	10,233	7,144		
17	明治維新150年振興事業 ●	実施事業数	千円	—	2	4	B	
		事業費	千円	0	725	2,567		
直接事業費の合計（千円）		A		16,390	17,502	17,131		
職員人件費等		業務量（人工数）		2.00人	2.00人		【業務評価】	
		人件費（千円）	B	9,717	9,737		A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
人件費を含む総事業費（千円）		A + B		26,107	27,239			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他		4,745	2,171			
		一般財源		21,362	25,068			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
伊藤博文公遺徳継承事業は、企画展等の開催により、伊藤公の遺徳を広く市民や次代へ継承するとともに、資料館の利用促進を図るうえで重要事項と考える。また、良好な施設や公園の維持管理を行い、来場者が快適に利用できるよう重点的に取り組む。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 本事業の意図を達成するための成果指標については目標を下回ったが、前年に比べ増加となった。明治維新150年への機運が高まる中で、山口県事業との連携効果によるものと推測される。今後も郷土の偉人である伊藤博文公の生涯や業績等を次代へ継承するための企画展の開催や、ホームページ等を活用した情報発信等の他、明治維新150年に向けた取組み等を通して、積極的なPRを行う必要がある。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 本事業の意図を達成するためには、伊藤博文公遺徳継承事業の推進及び良好な施設の維持管理が必要であり、事務事業がこれらを実現するための業務で構成されており適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 事務事業全体は、市が主体となり進めていくことが適切であるが、関係団体や地元住民の支援を得ながら、連携して実施していくことが適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	原田 啓志	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 11 -	作成者氏名	村上 巧	連絡先	0833-74-3607	
事務事業名	市民ホール管理運営事業		担当課	文化・社会教育課		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費	
				目 4	市民ホール費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	1	限らない市民力・地域力がゆたかに花開くまち 市民力向上のために 文化の振興		第2次総合計画 93頁
	重点目標		2			
	政策		2			

対象	市民ホール、公益財団法人光市文化振興財団及び市民ホールを利用する市民・団体等	意図 (対象をどのようにしたいのか)	文化施設の効果的利用により、市民に質の高い芸術・文化の鑑賞機会の提供や、各種芸術・文化活動の促進を図るとともに、施設の良い維持管理を行う。
事務事業の概要	指定管理者と連携を図りながら、市民ニーズに沿った芸術や文化の鑑賞機会を提供するとともに、市民の文化活動の発表の場として活用促進を図る。また、良好な施設の維持管理を行い、施設利用者及び来館者が快適に利用できるよう努める。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
貸館事業	件	404	404	450	89.7%	450	
入館者（年）	人	55,779	56,625	65,000	87.1%	65,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	●	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
			指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	市民ホール維持管理業務	●	開館日数 事業費	日 千円	307 67,454	307 67,388	307 67,050	B	◎
2			事業費	千円					
3			事業費	千円					
4			事業費	千円					
5			事業費	千円					
6			事業費	千円					
7			事業費	千円					
8			事業費	千円					
9			事業費	千円					
10			事業費	千円					
11			事業費	千円					
12			事業費	千円					
13			事業費	千円					
14			事業費	千円					
15			事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）					A	67,454	67,388	67,050	
職員人件費等		業務量（人工数）			0.30人	0.50人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	2,124	3,141	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円）					A+B	69,578	70,529		
財源内訳			国庫支出金						
			県支出金						
			地方債						
			その他			12,657	11,757		
			一般財源			56,921	58,772		

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
本市の文化振興を担う拠点のひとつとして指定管理者と連携し、施設の効果的な活用と市民が快適に利用できる環境を整備するため、重点的に取り組む。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 本事業の意図を達成するために設定した成果指標については、目標を下回った。市民ニーズに沿った事業の実施に努めているが、集客について予測との乖離がある場合がある。市民ニーズの把握に努め、今後も、市民に質の高い芸術や文化の鑑賞機会を提供するとともに、効果的利用の促進に努め、市民の芸術・文化活動の拠点としての役割を果たす。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 市民ホールの効果的利用、施設環境整備のための業務で構成されており適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 本事務事業は、市としての主体性を保ちつつも、指定管理者と連携していくことが適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	原田 啓志	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1055 - 12 -	作成者氏名	村上 巧	連絡先	0833-74-3607
事務事業名	光の文化を高める会運営助成事業		担当課	文化・社会教育課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費
				目 4	市民ホール費
第2次総合計画	基本目標	コード	1	項目	限らない市民力・地域力がゆたかに花開くまち
	重点目標		2		市民力向上のために
	政策		2		文化の振興
					第2次総合計画 93頁

対象	「光の文化を高める会」及び同会の主催事業を鑑賞する市民等	意図 (対象をどのようにしたいのか)	市民に優れた芸術・文化にふれあう機会を提供するとともに、芸術・文化活動の活性化を促進する。芸術鑑賞における個人負担を軽減することにより、会のさらなる活性化を図る。
事務事業の概要	「光の文化を高める会」は、各種コンサートや舞台公演等の自主事業を実施しており、本会への運営助成により、市民の芸術・文化に対する理解と関心を深めるとともに活性化の促進を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
主催事業入場者	人	6,012	6,424	7,000	91.7%	7,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	光の文化を高める会（自主事業）に対する補助金の交付業務 ●	事業費	人	1,178	1,035	1,150	B	◎
		事業費	千円	2,200	2,200	2,200		
2		事業費	千円					
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				2,200	2,200	2,200		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.15人	0.15人		【業務評価】	
		人件費（千円） B		1,062	1,070			
人件費を含む総事業費（千円） A+B				3,262	3,270			
財源内訳		国庫支出金					C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源			3,262	3,270		

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
「光の文化を高める会」への支援を行うことで、市民の芸術・文化鑑賞における個人負担の軽減を行う等、本市の芸術・文化活動の活性化を図るため重点的に取り組む。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 幅広い各年代層に合わせた魅力ある各事業の実施に努めたが、目標を下回る入場者となった。多様化する市民ニーズに対応し、市民文化の向上に向けた核として、優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するための事業を実施する。また会員数の伸び悩みが続いており、新たな会員の獲得と、現会員の継続の両面での対応が必要となる。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 主催事業を円滑に運営するとともに、市民文化の向上に寄与するための業務で構成されており適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 本事業の意図を達成するためには、ある程度、行政が主体となり進めていく必要があるが、会としての主体性も尊重しつつ進めていくことが適切である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	原田 啓志	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1090 - 2 -	作成者氏名	前田 豊	連絡先	0833-72-1440	
事務事業名	図書館運営事業	担当課	図書館			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費	
第2次総合計画	基本目標	コード	1	項目	限りない市民力・地域力がゆたかに花開くまち	
	重点目標		2			市民力向上のために
	政策		1			生涯学習社会の推進
					第2次総合計画 90頁	

対象	図書館施設を利用する市民等	意図 (対象をどのようにしたいのか)	図書館を生涯学習拠点の一つとして、世代を問わず本を身近に感じ、親しめる環境整備を進め、利用の促進を図る。
事務事業の概要	図書資料の収集・保存、貸出・返却、レファレンス業務、講座・講演会等の各種行事の開催し、環境整備に努め、読書活動の推進を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
市民1人あたりの貸出点数 (貸出点数/人口)	点	5.38	5.20	5.30	98.1%	5.30	
資料回転率 (貸出点数/資料点数)	回	1.40	1.34	1.50	89.3%	1.50	
利用登録率 (市内登録者数/人口)	%	22.99	22.93	25.00	91.7%	25.00	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	窓口(貸出・返却等)業務	貸出点数	点	280,311	268,585	270,500	B	
		事業費	千円	14,742	13,259	15,113		
2	予約・リクエスト・相互貸借業務	予約件数	件	18,358	16,304	18,500	A	
		事業費	千円	0	0	0		
3	講座・講演会等開催業務	講座・講演会等開催回数	回	7	6	5	A	
		事業費	千円	296	153	96		
4	館内・館外行事業務	行事開催回数	回	87	90	80	A	
		事業費	千円	0	0	0		
5	図書資料収集(購入・寄贈)業務	受入点数	点	6,861	6,544	6,000	A	◎
		事業費	千円	14,694	14,534	15,877		
6	図書資料除籍業務	除籍等点数	点	5,397	5,862	6,000	A	
		事業費	千円	0	0	0		
7	光市立図書館協議会運営業務	開催回数	回	2	2	2	A	
		事業費	千円	48	45	66		
8	レファレンス業務 ●	レファレンス件数	件	670	450	950	B	○
		事業費	千円	0	0	0		
9	光市子どもの読書活動推進計画実施業務 ●	児童書貸出点数	冊	90,513	89,399	89,500	A	
		事業費	千円	0	0	0		
10	会議・研修等参加業務	参加人数	人	6	12	5	A	
		事業費	千円	0	5	6		
11	山口県地方史学会負担金	受入資料点数	点	2	2	2	A	
		事業費	千円	2	2	2		
12	山口県図書館協会負担金	研修会参加回数	回	3	4	3	A	
		事業費	千円	9	9	9		
13	日本図書館協会負担金	受入資料点数	点	26	24	26	A	
		事業費	千円	37	37	37		
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計(千円) A				29,828	28,044	31,206		
職員人件費等		業務量(人工数)		4.10人	4.10人	【業務評価】		
		人件費(千円) B		19,554	19,648	A: 達成済 目標水準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 一: 一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費(千円) A+B				49,382	47,692			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		49,382	47,692			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
図書館資料収集業務は、図書館にとって重要な業務であり、資料の収集基準に照らし、利用者の関心と楽しみに応える多様な資料を収集することが求められている。 また、市民の課題解決を支援する「レファレンス業務」についても、重要な業務であり、図書館職員が研修会等へ積極的に参加し、スキルアップが必要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 成果指標における目標数値は達成していないが、概ね各事業における成果は見られる。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 図書館は、図書資料を収集し、整理し、保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的としている施設(図書館法第2条)であることから、貸出・予約・除籍・資料収集等の業務は適切である。また、図書館法第3条の第3項(レファレンス業務)、第5項(分館・配本所の設置)、第6項(各種イベントの開催)も重要な業務であり適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等(企業、地域団体、NPO等)の役割分担が適切かどうか分析する。 市立図書館は重要な生涯学習施設であり、無料で安定した資料、情報を提供する必要があることから、本事業は、市が主体となって、市民ボランティアと協働し、運営することが適切である。

◇担当課における改善等の案◇ (※以下、意思形成過程につき非公開)

事務事業執行責任者 (課長名)	穠山 卓夫	最終評価責任者 (部長名)	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1030 - 1 -	作成者氏名	村上 享	連絡先	0833-74-3603	
事務事業名	人権教育推進事業	担当課	人権教育課			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費	
				目 6	人権教育費	
第2次 総合計画	基本目標	コード	1	項目	限りない市民力・地域力がゆたかに花開くまち	
	重点目標		2			市民力向上のために
	政策		4			人権尊重社会の実現
第2次総合計画 98頁						

対象	市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	「市民一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会」の実現に向け、民主的で人間性豊かな幼児、児童、生徒及び市民の人権意識の高揚を図る。
事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における人権教育の推進 ・地域社会における人権教育の推進 ・人権教育研究団体への支援 		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
研修会・研修講座参加者数	人	3,020	3,450	3,000	115.0%	3,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	光市人権教育指導者研究会に対する事業費補助 ●	中央定例会開催回数 事業費	回 千円	2 585	2 585	2 585	A	○
2	学校・幼稚園における人権教育講座の開催支援 ●	開催回数 事業費	回 千円	13 117	13 149	12 240	A	
3	光市学校人権教育研究会に対する事業費補助 ●	研修会、理事会開催回数 事業費	回 千円	6 162	6 162	6 162	A	
4	光市人権教育活動実行委員会に対する事業費補助 ●	派遣人数 事業費	回 千円	11 540	14 540	14 540	A	
5	人権教育推進協議会運営業務	協議会開催回数 事業費	回 千円	2 812	2 850	2 919	A	◎
6	企業等に対する講師派遣 ●	派遣回数 事業費	回 千円	15 20	25 20	25 60	A	○
7	コミュニティ協議会人権教育推進委員会に対する事業費補助	推進大会・講座等開催回数 事業費	回 千円	6 0	6 0	6 0	A	
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				2,236	2,306	2,506		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.35人	0.40人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		2,478	2,854	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円） A+B				4,714	5,160			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金		365	309			
		地方債						
		その他						
一般財源				4,349	4,851			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
「市民一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現」のためには人権に関わる地域社会の自主的な取組を活性化させることが必要であり、そのためには各団体の中核となる指導者の育成が効率的である。そこで市内事業所、社会教育関係団体等の代表者から組織された光市人権教育指導者研究会員（会員数約200名）の研修の機会を充実させ、同会員の資質の向上に努め、人権意識を底上げすることが重要であると考えます。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 「市民一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会」の実現に向け、民主的で人間性豊かな幼児、児童、生徒及び市民の人権意識の高揚を図るためには、研修会や講座の開講など、人権教育に関する知識の普及や啓発を図る機会が必要とされている。本事業の実施により人権意識の伸張を促す成果が得られている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 人権教育の推進は本市行政の必要課題であり光市人権施策推進指針に沿った取組を総合的に推進していく必要がある。その一方で市民の要求課題への対応も大切である。そこで各種学習会、講演会に参加した際のアンケートの実施により、聴講者の学習への満足度・充実度を把握し、今必要とされている課題の選定に努め、人権教育に係わる学習会を時代に合わせて実施している。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市民にとって最も身近な自治体として、県と連携を図りながら、地域に密着したきめ細かい人権教育を実施するとともに、地域社会で行われる研修会等の自主的な取組への支援を行っている。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	原田 啓志	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1030 - 2 -	作成者氏名	村上 享	連絡先	0833-74-3603		
事務事業名	教育集会所管理事業	担当課	人権教育課				
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 5	社会教育費		
				目 6	人権教育費		
第2次 総合計画	基本目標	コード	1	項目	限りない市民力・地域力がゆたかに花開くまち	第2次総合計画	
	重点目標		2				市民力向上のために
	政策		4				人権尊重社会の実現
98 頁							

対象	施設利用者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	地域住民の生活に即した事業を行い、主体的な学習を通して相互連携を深め、教養を高められる施設を運営する。
事務事業の概要	教育集会所施設利用者の文化活動や交流活動等、自主的な学習が円滑に行われ、人権教育の推進が図られるよう、施設の維持管理、条件整備を行う。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
施設利用者数	人	10,108	9,851	10,000	98.5%	10,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
1	教育集会所運営業務 ●	開設教室数	教室	36	36	36	A	○
		事業費	千円	594	667	705		
2	教育集会所管理業務	管理対象日数	日	366	365	365	A	◎
		事業費	千円	3,424	1,250	1,260		
3		事業費	千円					
4		事業費	千円					
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				4,018	1,917	1,965		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.35人	0.40人	【業務評価】		
		人件費（千円） B		2,478	2,854	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 一：一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費（千円） A + B				6,496	4,771			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		6,496	4,771			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
人権について考えるなど継続した取組を進めるには、拠点となる施設が必要となる。また、拠点は建物のみを指すわけではなく、文化活動・交流活動等の教室活動を通しての市民相互交流といったソフト面の充実も欠かせない。したがって、集会所を「集いたい場所」として有効に活用するために建物維持管理及び運営管理を重点業務として選択している。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 10,000人程度の利用者を確保しており、自主的な文化活動、交流活動等に貢献している。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 集会所を長期的に維持するため、建物の維持管理と地元に着目した運営管理を行うことは有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 教育集会所の設置目的に鑑み、行政が人権教育施策の趣旨に基づき責任をもって、施設の維持管理を行うとともに利用者が運営にかかわる現在の運営方法は妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	原田 啓志	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1070 - 1 -	作成者氏名	三好 知弘	連絡先	0833-74-3605	
事務事業名	保健体育総務事務費	担当課	体育課			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 6	保健体育費	
第2次 総合計画	基本目標	コード 1 2 3	項目	限りない市民力・地域力がゆたかに花開くまち		第2次総合計画 96頁
	重点目標			市民力向上のために		
	政策			スポーツの振興		

対象	スポーツに関心を持つ市民・職員・スポーツ推進委員・体育施設利用者・スポーツ団体・スポーツ施設	意図 (対象をどのようにしたいのか)	生涯スポーツの推進に向けて、スポーツ推進委員や各種競技団体等と連携し、スポーツを通じたイベントの開催を行い、地域交流や競技スポーツの普及、推進を図る。
事務事業の概要	光市スポーツ推進委員による生涯スポーツの推進活動を効果的に展開するとともに、魅力あるスポーツイベントを開催し、スポーツ人口の拡大を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
市内体育施設1日当たりの利用件数	件	102	102	105	97.1%	105	
体育施設使用件数	件	37,351	37,556	38,000	98.8%	38,000	
体育施設使用人数	人	598,337	567,240	615,000	92.2%	615,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	スポーツ施設管理運営業務	市内体育施設使用件数 事業費	件 千円	37,351 3,971	37,556 1,748	38,000 1,943	A	
2	スポーツイベント開催及び運営業務	市主催体育行事参加者数 事業費	人 千円	3,471 312	4,262 268	4,000 314	A	○
3	スポーツ推進委員活動事業	定例会等開催数 事業費	回 千円	56 2,433	55 1,972	60 2,519	A	◎
4	周南地域スポーツ推進委員協議会負担金	研修会 事業費	回 千円	12 28	12 28	12 28	A	
5	山口県スポーツ推進委員協議会負担金	研修会 事業費	回 千円	12 35	12 35	12 35	A	
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計(千円) A				6,779	4,051	4,839		
職員人件費等		業務量(人工数)		1.20人	1.20人	【業務評価】		
		人件費(千円) B		8,497	8,562	A: 達成済 目標水準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 F: 一時的に実施無し		
人件費を含む総事業費(千円) A+B				15,276	12,613			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		15,276	12,613			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
生涯スポーツの推進には、地域スポーツ活動の活性化は重要であり、今後スポーツ推進委員のスポーツ活動に対する資質の向上を目指し、多角的なスポーツ振興を図る必要がある。また、併せてスポーツ愛好者が運動できる提供の場として、魅力的なイベント等を展開する必要性がある。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 生涯スポーツの推進を図るため、スポーツ推進委員の技能習得のため積極的な研修会への参加、各種スポーツイベントの参画により、引き続き地域のスポーツ人口拡大に努める。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 スポーツ推進委員の組織的な活動により、効果的なスポーツ活動が展開され、生涯スポーツの振興が十分に図られている。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 スポーツ推進委員の活動により、スポーツの振興が図られており、今後もスポーツ推進委員の知識や技能の向上を各種研修会を通じて会得し、光市のスポーツ振興に寄与していくこととする。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	村崎 一生	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1070 - 2 -	作成者氏名	三好 知弘	連絡先	0833-74-3605	
事務事業名	体育活動推進事業	担当課	体育課			
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 6	保健体育費	
第2次総合計画	基本目標	コード	項目	限りない市民力・地域力がゆたかに花開くまち		第2次総合計画 96頁
	重点目標			市民力向上のために		
	政策			スポーツの振興		

対象	市民、市内通勤・通学者、光市体育協会及び加盟団体、光市スポーツ少年団	意図 (対象をどのようにしたいのか)	市民がスポーツを身近なものとして気軽に取り組めるように環境を整備するとともに、競技スポーツの育成、発展のため効果的な支援を行い、競技力の向上を図る。
事務事業の概要	光市の生涯スポーツ及び競技スポーツの推進を図るため、スポーツイベントの開催や各種スポーツ団体への効果的な支援を行う。また、優秀なスポーツ選手に対して表彰することにより、意識啓発や次世代のスポーツ選手の育成を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
スポーツ優秀選手表彰件数	件	76	92	90	102.2%	90	
主催行事参加者数	人	3,632	4,367	4,000	109.2%	4,500	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算		
1	体育活動推進業務	市民体育大会参加者数	人	1,438	1,200	1,500	A	
		事業費	千円	420	640	916		
2	スポーツ優秀選手表彰業務	表彰者数	人	147	157	160	A	◎
		事業費	千円	302	381	400		
3	スポーツ少年団活動推進業務	スポーツ少年団団員数	人	804	812	820	A	○
		事業費	千円	621	621	600		
4	スポーツ大会開催補助金	派遣助成件数	件	131	132	140	A	
		事業費	千円	3,000	3,000	2,950		
5	光市セーリング連盟補助金	助成件数	件	1	1	1	A	
		事業費	千円	283	283	270		
6	光市体育協会補助金	助成件数	件	218	214	220	A	
		事業費	千円	2,403	2,403	2,350		
7	山口県読売駅伝参加費補助金	助成件数	件	1	1	1	A	
		事業費	千円	300	300	250		
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	7,329	7,628	7,736	
職員人件費等		業務量（人工数）		1.25人	1.25人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	8,851	8,919	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 一：一時的に実施無し	
人件費を含む総事業費（千円）				A + B	16,180	16,547		
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他			41	62		
		一般財源		16,139	16,485			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
被表彰対象者の選定に際し、年齢による区分や県内予選が開催されない全国大会など、競技種目により偏りが見受けられるため、一定の基準を設け、受賞者の均衡性を保つとともに、小学生の受賞者においては、光市優秀選手表彰式以外での表彰を行うなど検討する必要がある。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 生涯スポーツ及び競技スポーツの振興について、効果的に事業を展開している。目標数値を下回った項目については、一定の成果が得られているものであり、微増、微減の範囲で推移していると推察する。
業務構成の有効性	各種スポーツ団体と連携を密にし、スポーツの普及・推進に努め、競技力向上を目指す。引き続き事業の継続により、一層のスポーツの振興を図る。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 光市体育協会、体育協会加盟競技団体、スポーツ推進委員協議会等のスポーツ活動に関して連携を行う団体と役割を明確にし、適切に実施している。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	村崎 一生	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1070 - 3 -	作成者氏名	三好 知弘	連絡先	0833-74-3605
事務事業名	体育施設管理運営事業		担当課	体育課	
予算費目	一般会計	款 10 教育費	項 6 保健体育費	目 2 体育施設費	
第2次総合計画	基本目標 重点目標 政策	コード 1 2 3	項目 1 2 3	限らない市民力・地域力がゆたかに花開くまち 市民力向上のために スポーツの振興	
					第2次総合計画 96頁

対象	市民、体育施設利用者、体育施設管理者、体育施設	意図 (対象をどのようにしたいのか)	体育施設を安全に利用できるよう維持管理に努め、利用者のスポーツ活動の場として利用促進に寄与する。
事務事業の概要	市民のスポーツ活動をより効果的にまた安全に推進するために必要な体育施設の維持管理と有効的な運営業務を進めるとともに、指定管理者制度による体育施設の安定した活用と施設管理を行うことで、快適なスポーツ環境の充実に努める。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
市内体育施設利用者数	人	598,337	567,240	615,000	92.2%	615,000	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	●	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
			指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
			事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	一般体育施設維持管理業務	●	スポーツ館利用者数	人	29,236	26,553	32,000	B	
			事業費	千円	5,696	6,327	3,610		
2	学校体育施設開放業務	●	学校体育施設利用者数	人	128,361	132,190	129,000	B	○
			事業費	千円	1,152	1,100	896		
3	光市総合体育館、光スポーツ公園、大和総合運動公園管理業務	●	利用者数	人	383,997	356,949	385,000	B	◎
			事業費	千円	122,400	123,944	125,486		
4	サン・アビリティーズ光管理業務	●	利用者数	人	30,569	29,738	30,000	A	
			事業費	千円	6,480	6,480	6,480		
5	勤労者体育センター管理業務	●	利用者数	人	26,174	21,830	25,000	A	
			事業費	千円	3,942	3,942	3,942		
6			事業費	千円					
7			事業費	千円					
8			事業費	千円					
9			事業費	千円					
10			事業費	千円					
11			事業費	千円					
12			事業費	千円					
13			事業費	千円					
14			事業費	千円					
15			事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）					A	139,670	141,793	140,414	
職員人件費等		業務量（人工数）			1.20人	1.20人		【業務評価】 A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 -：一時的に実施無し	
		人件費（千円）		B	8,497	8,562			
人件費を含む総事業費（千円）					A+B	148,167	150,355		
財源内訳			国庫支出金						
			県支出金						
			地方債						
			その他			19,631	19,549		
			一般財源			128,536	130,806		

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
光市のスポーツ活動の中心施設であり、生涯スポーツから競技スポーツまであらゆるスポーツ競技者が快適な環境でスポーツ活動を身近に親しめるよう施設の維持管理を行うとともに「みる」スポーツを提供するなど、市民のスポーツに対する気運の醸成を図る。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 市内の各スポーツ施設において、一定の利用者の拡大は図られているが、一層の利用者の増加に努めるよう施設の利用状況に応じた活用を進める必要がある。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 指定管理を実施している施設において、利用者へのサービス向上のための対応を実践しており、快適なスポーツ環境の提供を目指している。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 各施設の管理運営や自主事業等について、指定管理者と連携を密にし、市民のスポーツ活動の活性化とスポーツに対する関心度を向上させ、スポーツ振興を相互協力のもと推進する。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	村崎 一生	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1130 - 1 -	作成者氏名	山田 久敏	連絡先	0833-72-0050
事務事業名	学校給食センター管理運営事業	担当課	学校給食センター		
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 6	保健体育費
第2次総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 質の高い教育の推進
	重点目標	2			
	政策	1			
					第2次総合計画 110頁

対象	市立小・中学校児童生徒	意図 (対象をどのようにしたいのか)	学校給食センターの機能を良好な状態で維持し、安全・安心な学校給食、栄養バランス・多様性に配慮した学校給食を児童生徒に提供する。
事務事業の概要	【管理面】学校給食センターの機能を良好な状態で維持するため、空調設備やボイラー保守等の業務委託や施設修繕を行う。 【運営面】安全安心で栄養バランス・多様性に配慮した学校給食を提供するため、薬剤師による環境衛生検査指導を行い、調理等業務委託により給食の質の向上を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
給食停止日数	日	0	0	0	100.0%	0	
主菜、副菜の料理品数	品	385	388	385	100.8%	390	
児童生徒一人当たりの給食提供コスト	円	34,310	33,757	33,138	98.2%	37,252	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務
		指標名	単位	28年度実績	29年度実績	30年度目標		
		事業費	単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算		
1	学校給食センター調理等業務委託	給食提供日数	日	196	199	200	B	◎
		事業費	千円	78,408	78,408	78,408		
2	学校給食を活用した食育推進業務	実施した学校の割合	%	100	100	100	B	○
		事業費	千円	0	0	0		
3	学校給食センター維持管理業務	保守対象日数	日	365	365	365	A	○
		事業費	千円	5,660	5,366	5,692		
4	学校給食センター運営庶務業務	給食停止日数	日	0	0	0	A	
		事業費	千円	31,939	26,065	26,451		
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計(千円) A				116,007	109,839	110,551		
職員人件費等		業務量(人工数)		2.95人	2.95人	【業務評価】 A: 達成済 目標準プラス見直し B: 実施手法の要改善 C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 29年度を以て廃止・終了 F: 一時的に実施無し		
		人件費(千円) B		16,738	16,785			
人件費を含む総事業費(千円) A+B				132,745	126,624			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源		132,745	126,619			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
安全・安心な学校給食を提供するため主要となる調理及び配送等業務を最重点化業務とした。委託業者と連携を図り、衛生管理を徹底することによって異物混入を防ぎ、安全・安心な学校給食を提供し、給食停止日数0日の目標達成に向けて取り組んでいる。また、学校給食を活用した食の指導を行うことで、家庭での食育にもつなぐ重要な役割を担う学校給食の推進並びに、安全・安心な学校給食を提供するうえで欠かせない、施設を正常稼働させるための維持管理業務を重点化業務とした。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 【管理面】厨房機器や空調設備の保守点検、害虫駆除、排水管等清掃、ボイラー保守業務等の専門業者への委託により、衛生面等に配慮した学校給食を調理するための環境を整備し、安全・安心な学校給食の提供に寄与した。 【運営面】学校給食調理等業務の民間委託により民間の高い知識や技術力を最大限に活かし、調理機器を最大限に活用した献立の作成により、栄養バランス・多様性に配慮した学校給食及び安全・安心な学校給食の提供が可能となっている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 安全・安心な学校給食を提供するためには、調理及び配送業務をはじめ、施設及び設備の適正な管理・運営が必要不可欠である。また、学校給食を活用した食育の推進や施設の正常稼働をさせるために必要な維持管理を適正に行うことで、児童・生徒の心身の健全な発達に寄与していることから、適切である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 本事務事業は、市が実施主体となり進めていくべきであるが、調理及び配送業務をはじめ、空調設備やボイラーの保守点検等専門性の高い業務については民間委託し、民間の高い知識や技術力を活かして運営・管理を実施しており、職員自らが実施可能な業務については職員が行うことにより経費削減を行っており、役割分担は妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	清水 俊宏	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------

平成30年度事務事業評価シート（平成29年度決算）

事業コード	1010 - 11 -	作成者氏名	影土井 洋治	連絡先	0833-74-3601
事務事業名	私学振興対策事業		担当課	教育総務課	
予算費目	一般会計	款 10	教育費	項 7	教育諸費
第2次 総合計画	基本目標	コード	2	項目	ゆたかな人間性と可能性を大切に心温かい人が育つまち 人間性を育み可能性を高めるために 質の高い教育の推進
	重点目標		2		
	政策	ド	1		
					第2次総合計画 110頁

対象	私立高等学校（学校法人榑蔭学園）	意図 (対象をどのようにしたいのか)	私立学校の自立性を尊重しながら、私立学校法第59条及び私立学校振興助成法第10条並びに光市学校法人の助成に関する条例に基づき、教育環境の維持・向上、学校経営の健全化等を図る。
事務事業の概要	本市唯一の私立高等学校である聖光高等学校に対する教材備品購入等への補助や施設整備借入金利子補給を行うなど、私学振興を図る。		

事務事業の成果指標	単位	28年度実績	29年度			32年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
「高校・高等教育の充実」に関する満足度	%	32.1	33.9	40.0	84.8%	40.0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務	
		指標名 事業費	単位 単位	28年度実績 28年度決算	29年度実績 29年度決算	30年度目標 30年度予算			
1	私学振興対策費補助業務 ●	事業費	千円	3,240	2,916	2,916	A	○	
2	聖光高等学校施設整備借入金利子補給業務 ●	事業費	千円	35	3,261	3,180	A	◎	
3	私学振興預託業務 ●	事業費	千円	560	—	—			
4		事業費	千円						
5		事業費	千円						
6		事業費	千円						
7		事業費	千円						
8		事業費	千円						
9		事業費	千円						
10		事業費	千円						
11		事業費	千円						
12		事業費	千円						
13		事業費	千円						
14		事業費	千円						
15		事業費	千円						
直接事業費の合計（千円） A					3,835	6,177	6,096		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.30人	0.30人	【業務評価】 A：達成済 目標準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：29年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し			
		人件費（千円） B		2,124	2,141				
人件費を含む総事業費（千円） A + B					5,959	8,318			
財源内訳		国庫支出金							
		県支出金							
		地方債							
		その他							
		一般財源		5,959	8,318				

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
私立高等学校の教育環境整備に係る整備費の借入金に対する利子補給及び私学振興対策費補助業務については、安定的な学校経営を支えるものであり重要である。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 市民アンケートにおける満足度が広い尺度であるため、当該事業が市民満足度が事業成果に直接的に反映しているとは言いがたいが、私学の健全経営及び振興の一端を担っているものと考えている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 当該高等学校の経営の安定及び健全な学校運営を支えることで生徒の学業成績やスポーツ、文化活動の活性化に繋がるとともに、合わせて当該生徒に対する評価の向上が期待でき、加えて光市のPRにも貢献していると考えている。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 少子化が進行するなか、私立学校の運営が厳しいのも事実である。私学としての経営努力も必要であるが、本市唯一の私立高等学校として同校が果たすべき役割は大きく、総合計画にも掲げている私学振興対策は妥当と考える。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	太田 隆一	最終評価責任者 （部長名）	中村 智行
--------------------	-------	------------------	-------